

「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の
実現を目指して

第6次高浜市総合計画 基本計画【後期】

施策評価シート【案】

〔平成30年度の取組みに対する評価〕



令和元年 9 月

目 次

1. はじめに

- (1) 「施策評価」(点検・確認)のねらいと実施方法 . . . 2
- (2) 基本計画[後期]の体系 . . . 6
- (3) 施策評価シート とりまとめ部署一覧 . . . 10

2. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果

- (1) 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果 . . . 12
- (2) 「みんなで目指すまちづくり指標」一覧 . . . 14

3. 施策評価シート

- (1) 施策評価シートの見方 . . . 18
- (2) 施策評価シート

基本目標Ⅰ. みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

- 目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくり
ます . . . 20

- 目標(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います . . . 24

基本目標Ⅱ. 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

- 目標(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちの子カラを育みます . . . 28

- 目標(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます . . . 32

- 目標(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます . . . 36

基本目標Ⅲ. 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう

- 目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします . . . 40

- 目標(7) みんなでまちをきれいにします . . . 44

- 目標(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります . . . 48

- 目標(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます . . . 52

基本目標Ⅳ. いつも笑顔で健やかに つながり 100 倍ひろげよう

- 目標(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます . . . 56

- 目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します . . . 60



1

はじめに

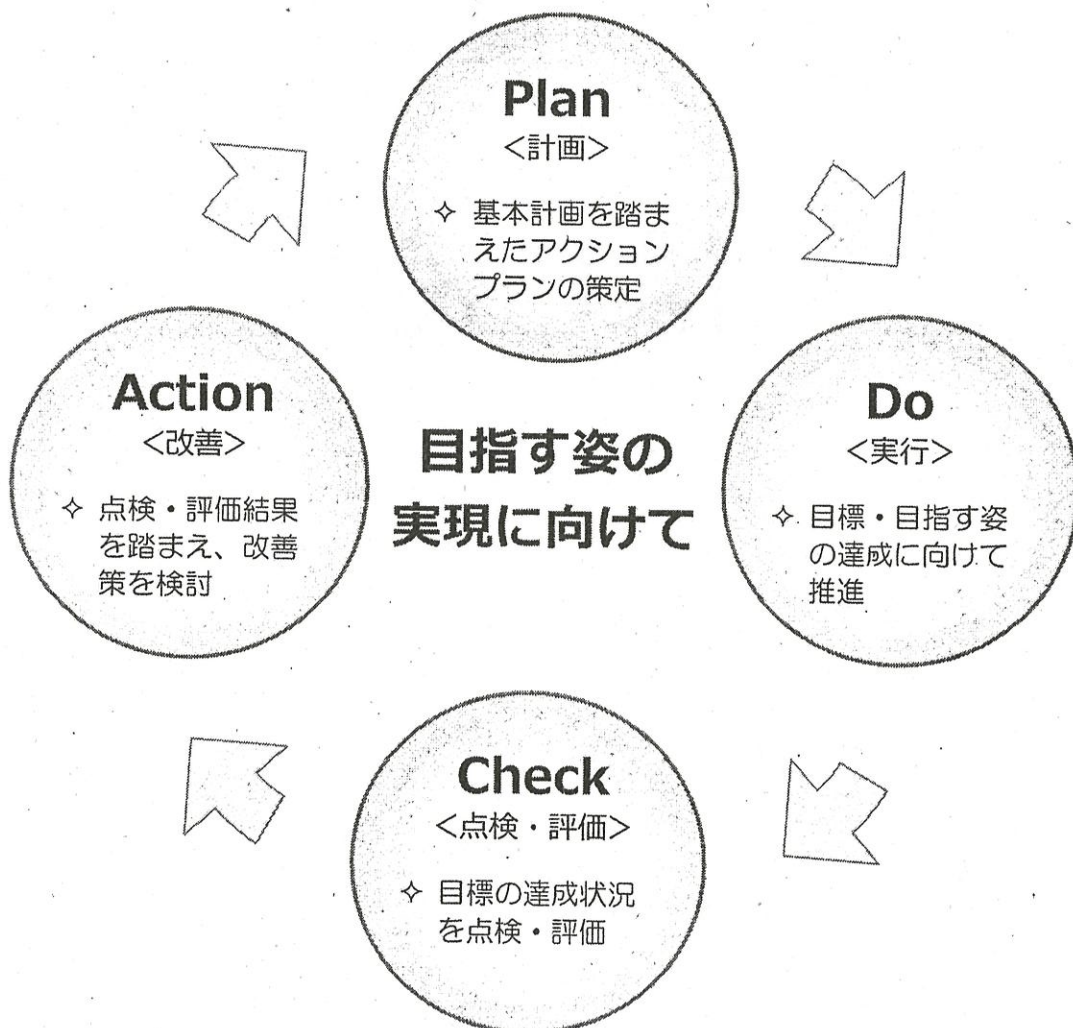


■ □ (1) 「施策評価」(点検・確認)のねらいと実施方法 □ ■

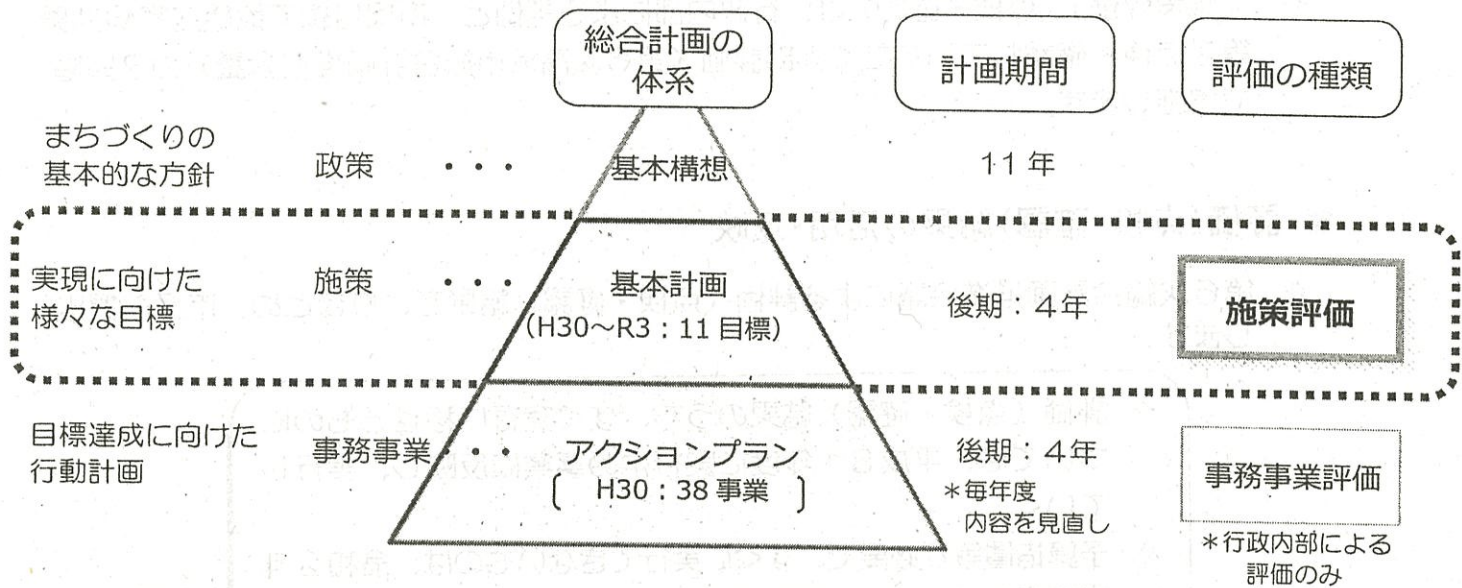
■ 目指す姿の実現に向けて、計画を着実に推進していくために…

- ◇ 総合計画は、みんなで力を合わせて高浜市をつくっていくために「こんなまちにしていこう!」というまちづくりの目標を掲げ、その実現に向けて必要な取組内容を盛り込んだ、「高浜市のまちづくりの設計図」です。
- ◇ 総合計画を実効性のあるものとしていくため、「自治基本条例」と「第6次総合計画」に「計画の進行管理」を位置づけ、PDCA サイクル*に基づき、目標の達成状況の点検・検証、事業の見直し・改善を行うことを宣言しています。

* 「PDCA サイクル」… 計画 (Plan) し、実行 (Do) し、その結果を評価・検証 (Check) し、改善策や次の施策に活かしていく (Action) こと。

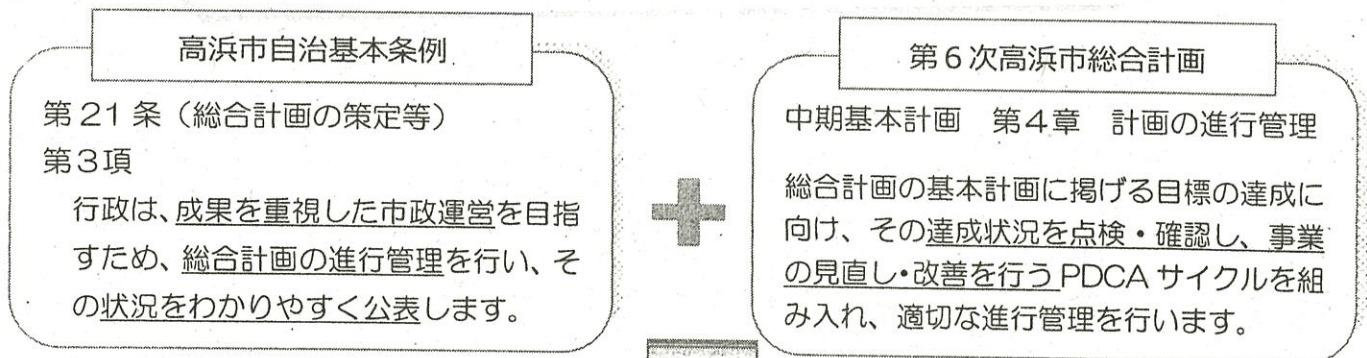


■ 総合計画の体系と評価(点検・確認)の種類



■ 「施策評価」(点検・確認)とは

◇ 「施策評価」(点検・確認)とは、目指す姿の実現に向けて、「後期基本計画」に掲げる11目標について様々な観点から点検・確認し、その結果を「アクションプラン」の見直しに反映させ、よりよい行政サービスにつなげることをいいます。



施策評価(点検・確認)のねらい

①緊張感を保ちながら、よりよい行政サービスにつなげるために ~市民目線を意識して~

総合計画に掲げた目指す姿の実現に向けて、「総合計画推進会議」や「市民意識調査」、日頃の業務を通じてなど、多様な方法で市民の皆さんの声をお聞きし、行政が行っている事業が市民のみなさんの役に立っているかどうかを、緊張感を保ちながら様々な観点から評価(点検・確認)し、事業の見直し・改善に反映させることにより、よりよい行政サービスにつなげる。

②市民とともに課題を考え、解決に向けて行動していくために ~情報共有と説明責任~

市民と行政が市政運営やまちづくりの課題などについて共通認識を持ち、解決策についてともに考え、目指す姿の実現に向けて行動できるように、後期基本計画に掲げる目標の推進状況、目標の達成状況などの点検・確認結果などを、市民にわかりやすく公表・情報を共有することにより、市政の透明性を高め、説明責任を果たす。

■ 2段階評価による実施

- ◇ 「施策評価」(点検・確認)は、行政内部による評価と、市民目線で取組内容や効果等を点検・確認していただく外部評価(第6次高浜市総合計画推進会議)の2段階で実施します。

■ 評価(点検・確認)結果の活用・反映

- ◇ 第6次総合計画推進会議による評価(点検・確認)結果をとりまとめ、市長へ提出します。

- ◇ 評価(点検・確認)結果のうち、すぐ実行に移せるものについては、平成31年度に実行中の事業に反映し、実行していく。
- ◇ 予算措置等が必要で、すぐに実行できないものは、令和2年度アクションプラン策定の際の検討材料として活用する。



評価(点検・確認)結果を公表することにより、市民と情報を共有し、説明責任を果たす。

■ 第6次高浜市総合計画 後期基本計画 進行管理体制 ■

第6次高浜市総合計画推進会議

〔所掌事務〕

（「第6次高浜市総合計画推進会議設置規則」より）

- 1) 総合計画の進行管理に関する事項
- 2) その他総合計画の推進に関する事項

具体的には・・・

- ◇ 後期基本計画に掲げた施策（11 目標）について、行政がとりまとめた「施策評価（内部評価）」の内容を点検・確認し、目標の達成に向けた意見・アイデア等を述べる。

＜点検・確認の主な視点＞

- ①取組内容は、目標達成のための手段として適切だったか。
- ②「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」の結果分析や課題把握は的確か。
- ③課題の解決に向けた今後の取組み（案）は、目標達成に資する内容となっているか。

- ◇ 「点検・確認結果」をとりまとめ、市長へ提出する。
- ◇ 推進会議が提出した「点検・確認結果」が、施策・予算等へ反映されているかを確認し、必要に応じて意見を述べる。
- ◇ 推進会議の進め方について協議する。
- ◇ 推進会議のあり方について検討する。

〔構成〕 12 名

- ・ 中川幾郎氏（帝塚山大学大学院名誉教授）
- ・ 市民（10 名）
- ・ 副市長

〔開催頻度〕 年 4 回程度

☆意見を述べる

☆点検・確認結果を報告

キャッチボール

☆検討資料の提示

☆求めに応じて関係職員が出席

行政

市長

【部長会】

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画の進行管理に向けた総合調整を行う。
- ◇ 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の調整を行う。

資料を提出

職員へ指示

【各担当グループ】

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画に掲げた目標の達成に向けて、施策・事業を推進する。
- ◇ 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の作成を行う。
- ◇ 推進会議から示された意見等について、実現可能かどうかを検討し、施策・予算等へ反映する。

【事務局】（総合政策グループ）

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画の進行管理事務、推進会議の運営を行う。
- ◇ 推進会議の求めに応じた資料等の取りまとめを行う。
- ◇ 進行管理にあたって必要な各種データ・情報の収集を行う。

■□ (2) 基本計画【後期】の体系 □■

基本計画【後期】は、基本構想に定めた将来都市像「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ」までに、市民・地域・事業者・関係機関・行政が協働して取り組むまちづくりの方向性やための具体的な方策・手段（こんなことに取り組みます）を35本掲げます。

都市像	基本目標	目標	こんなことに
思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかほま	I みんなで考え みんなで汗かき みんなの まちを創ろう	(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくり	☆市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極
			☆市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれの
			☆職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改
		(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います	☆市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知り
			☆工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適
		☆公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を	
	II 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を 育もう	(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	☆市民とともにまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・
			☆市民（特に子ども・若者）の「知りたい」「やって
			☆「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気
		(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	☆異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、
		☆高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活か	
	☆高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・		
	☆支援の必要な児童生徒の「特別支援ファイル」の作成と引き継ぎ		
	(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます	☆「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、	
		☆子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、子	
		☆身近な場所に、子どもの自主性・社会性をはぐくめ	

「大家族たかはま」を実現するため、平成30年度（2018）から令和3年度（2021）目標を示したものです。目指すべき姿（個別目標）を11目標、目標値や目標を達成する

取り組みます！
まず
的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくります。
ステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。
革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。
たい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。
正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。
高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。
産業・景観などを掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。
みたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。
軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。
よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。
した教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。
活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。
を確実に行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。
多様で柔軟な保育サービスの提供など、教育・保育ニーズに対応し、待機児童ゼロをめざします。
育ち・子育てを支える大人を増やしていきます。
るよう、自然に世代間や異年齢交流などができる場を増やしていきます。

都市像	基本目標	目標	こんなことに
思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかほま	Ⅲ 明日を 生み出す エネルギー やる気を 活かせる まちをつくらう	(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	
			☆農地とのバランスを考慮しつつ新たな工業用地を ☆災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発 ☆高浜高校SBP（ソーシャルビジネスプロジェクト） ☆高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜
		(7) みんなでまちをきれいにします	
			☆地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全 ☆循環型社会の構築に向け、資源ごみのリサイクルを ☆「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推
		(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります	
			☆道路や橋りょう等の計画的な維持管理のため、調 ☆災害時でも水が安定的に供給できるよう、災害時避 ☆公園施設長寿命化計画に則って計画的に公園施設
		(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	
			☆自然災害に対し、市民・地域・事業者・関係機関と ☆「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に ☆地域・警察・事業者・関係機関と連携し、特に自転
		Ⅳ いつも笑顔で 健やかに つながり 100倍 ひろげよう	(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めま
			☆生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な ☆その人に合った暮らしを実現するため、地域の実情 ☆福祉サービスやふだんの生活を支えるための多様
	(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します		
			☆生涯をとおして健康を意識し、生活の質を高めるた ☆高齢者の居場所である「健康自生地」を応援すると ☆疾病を早期に発見し、適切な治療が受けられる「か

取り組みます！
創出し、企業誘致を進めるとともに、既存企業の投資意欲を高める支援策を推進します。
、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をPRするため、「高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例」を推進します。
ト)を支援し、高浜市の産業を全国的にPRするなど、ビジネス手法を用いた若い世代の育成支援をします。
市のPRに対し人的支援、活動支援をします。
活動に取り組みます。
進め、ごみの減量化に取り組みます。
進し、環境美化活動を進めます。
査・点検を進め、改良や修繕を行います。
難所へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えするなど、耐震化を進めます。
の修繕を進めるとともに、地域の関係団体と協働で「緑のあるまちづくり」を進めます。
「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携強化を図り、実践的な防災・減災活動に取り組みます。
基づき、地域・警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議を軸に、犯罪抑止活動を推進します。
車の運転マナーの向上、高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取り組みなど、交通安全対策を進めます。
す
人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。
に応じて、福祉サービスや地域の支え合いの充実を図ります。
な人材を養成します。
めの健康づくり活動を応援します。
ともに、担い手としての活躍の場を創出します。
かりつけ医」を持つよう働きかけるとともに、地域医療の充実と医療と介護の連携を推進します。

■ □ (3) 施策評価シート とりまとめ部署一覧 □ ■

◎=とりまとめグループ

<基本目標Ⅰ>

みんなで考え
みんなで汗かき
みんなのまちを
創ろう

企画部長 深谷直弘
総務部長 内田 徹

目標 (1) まちへの想いを育み、
いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります

◎企画部 総合政策グループ
企画部 秘書人事グループ

目標 (2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います

◎総務部 財務グループ
企画部 ICT 推進グループ
教育委員会 学校経営グループ

<基本目標Ⅱ>

学び合い
力を合わせて
豊かな未来を
育もう

教育長 都築公人
こども未来部長 木村忠好

目標 (3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます

◎こども未来部 文化スポーツグループ

目標 (4) 学校・家庭・地域が連携を深め、

12年間の学びや育ちをつなげます

◎教育委員会 教育センターグループ

目標 (5) 子育て・子育てを支える環境を整えます

◎こども未来部 こども育成グループ

<基本目標Ⅲ>

明日を生み出す
エネルギー
やる気を活かせる
まちをつくろう

都市政策部長 杉浦義人
市民部長 中村孝徳

目標 (6) 産業を活性化して、まちを元気にします

◎市民部 経済環境グループ
都市政策部 都市計画グループ

目標 (7) みんなでまちをきれいにします

◎市民部 経済環境グループ

目標 (8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります

◎都市政策部 土木グループ
都市政策部 上下水道グループ

目標 (9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます

◎都市政策部 防災防犯グループ

<基本目標Ⅳ>

いつも笑顔で
健やかに
つながり 100 倍
ひろげよう

(福祉部長 加藤一志)

目標 (10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

◎福祉部 地域福祉グループ
福祉部 介護障がいグループ
福祉部 福祉まるごと相談グループ
福祉部 健康推進グループ

目標 (11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

◎福祉部 健康推進グループ
福祉部 福祉まるごと相談グループ



2

「市民意識調査」 「みんなで目指す まちづくり指標」 結果



■ □ (1) 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果 □ ■

目標	計画策定時の値 (平成29年)	実績値	動向
		(平成30年)	
(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります	62.2%	61.8%	×
(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います	46.6%	45.1%	×
(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちの子カヲを育みます	55.2%	53.4%	×
(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	58.8%	62.0%	○
(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます	54.7%	55.5%	○
(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	21.0%	27.7%	○
(7) みんなでまちをきれいにします	66.2%	65.6%	×
(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります	44.8%	50.2%	○
(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	57.7%	55.3%	×
(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	63.0%	58.5%	×
(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	65.8%	61.7%	×

※「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計

【動向】

○…実績値(平成30年)が計画策定時の値(平成29年)を上回っている。

△…実績値(平成30年)が計画策定時の値(平成29年)と同じ。

×…実績値(平成30年)が計画策定時の値(平成29年)を下回っている。

MEMO

■ □ (2) 「みんなで目指すまちづくり指標」 一覧 □ ■ ※=市民意識調査で把握

目標	目標の達成度を計る指標	計画策定時の値 (平成29年)	実績値 (平成30年)	動向	目標値 (令和3年)
(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります	市の情報発信に満足している人の割合 ※	47.3%	62.0%	○ ↗	65% ↗
	地域活動に参加したことがある人の割合 ※	62.9%	58.6%	× ↘	70% ↗
	市民と一緒にあって地域活動に取り組んでいる職員の割合	54.0%	55.0%	○ ↗	66% ↗
(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います	経常収支比率	88.8%	89.3%	◎ ↗	80%台維持 ↗
	将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合 ※	46.6%	45.1%	× ↘	55% ↗
(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合 ※	71.4%	66.4%	× ↘	76% ↗
	将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合 ※	76.1%	75.8%	× ↘	81% ↗
	持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合 ※	28.5%	27.9%	× ↘	35% ↗
(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	自分や周りのよさを認める子どもの割合 ※ ★注意1	78.5%	90.3%	◎ ↗	85% ↗
	地域や社会に関心をもつ子どもの割合 ※ ★注意2	59.2%	74.5%	◎ ↗	70% ↗
	学習が将来、役立つと感じている子どもの割合 ※ ★注意3	76.7%	80.4%	○ ↘	85% ↗
(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合 ※	66.0%	65.9%	× ↘	70% ↗
	子どもに対して理解のある大人の割合 ※	66.2%	70.1%	○ ↗	94% ↗
	待機児童数	17人	19人	× ↗	0人 ↘
(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	市内の法人数	919社	937社	◎ ↗	930社 ↗
	行政がかかわるイベントの来場者数	86,000人	89,000人	○ ↗	100,000人 ↗
	製造品出荷額等	5,123.5億円	4,941.1億円	× ↘	6,227.7億円 ↗
(7) みんなでまちをきれいにします	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合 ※	77.9%	75.2%	× ↘	85% ↗
	1人1日あたりの家庭ごみ排出量	540g	564g	× ↗	490g ↘
	市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことがある人の割合 ※	60.4%	59.6%	× ↘	71% ↗

■ □ (2) 「みんなで目指すまちづくり指標」 一覧 □ ■ ※=市民意識調査で把握

目標	目標の達成度を計る指標	計画策定時の値 (平成 29 年)	実績値 (平成 30 年)	動向	目標値 (令和 3 年)
(8) 自然と都市機能が調和した 都市空間をつくります	道路の長寿命化を計画的に実施した 割合(幹線道路の舗装)	18.4%	23.1%	○ ↗	38.6% ↗
	配水管の耐震化率	18.5%	20.5%	○ ↗	25% ↗
	公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地 等を利用している人の割合 ※	20.2%	24.6%	○ ↗	23% ↗
(9) 安全・安心が実感できる地域 づくりを進めます	家具を固定している人の割合 ※	59.1%	61.0%	○ ↗	70% ↗
	防災訓練に参加したことのある人の 割合 ※	61.9%	61.7%	× ↘	72% ↗
	人口 1,000 人あたり犯罪発生件数	6.9 件	6.5 件	○ ↘	6.0 件 ↘
	人口 1,000 人あたり交通事故発生件 数	3.9 件	3.7 件	○ ↘	3.0 件 ↘
(10) 一人ひとりを認め合い、その 人らしく暮らせるまちづくりを 進めます	いきいき広場(相談窓口)を知っている 人の割合 ※	72.3%	74.8%	○ ↗	80% ↗
	高浜市内でボランティア活動に参加し たことがある人の割合 ※	29.7%	28.3%	× ↘	36% ↗
(11) 一人ひとりの元気と健康づく りを応援します	日常的に外出や運動を楽しんでいる 人の割合 ※	63.4%	66.3%	○ ↗	71% ↗
	かかりつけ医を持っている人の割合 ※	78.6%	74.7%	× ↘	84% ↗

- ★注意 1 2つの設問の平均値…①自分は成長している(成長した)と思いますか
②あなたの周りは、お互いの考えを認めたりよさを見つけたりすることができている
と思いますか
- ★注意 2 2つの設問の平均値…①あなたは、高浜の人、もの、ことに関心がありますか
②あなたは、社会に関心をもって、新聞を読んだり、テレビやネットのニュースを
見たりしますか
- ★注意 3 4つの設問の平均値…①分からないことがあった時、調べたり、どういことか考えたりしますか
②学習したことを活用していろいろな問題の解決に役立っていますか
③学習したことや考えたことを、表現を工夫して人に伝えたことはありますか
①②③の繰り返し、将来役に立つと感じますか

【指標の動向】

- ◎=実績値(平成 30 年)が目標値(令和 3 年)に達している。 <4 指標/31 指標> (12.9%)
○=実績値(平成 30 年)が目標値(令和 3 年)に達していないが、計画策定時の値(平成 29 年)を上回っている。
<13 指標/31 指標> (41.9%)
△=実績値(平成 30 年)が計画策定時の値(平成 29 年)と同じ。 <0 指標/31 指標> (0%)
×=実績値(平成 30 年)が計画策定時の値(平成 29 年)を下回っている。 <14 指標/31 指標> (45.2%)

【参考】

設問	H26	H27	H28	H29	H30	H31
高浜市のまちづくりのキャッチフレーズ「思い やり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族た かはま」を知っていますか。	39.9% ↗	41.4% ↗	43.4% ↗	48.0% ↗	46.7% ↘	43.7% ↘



3

施策評価 シート



【施策評価シートの見方】

目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも 住み続けたいと思えるまちをつくります

I. 目指す姿【PLAN】

総合計画から転載しています。

目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい!」と思える高浜市を未来へとつないでいくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力できる「つながるまちづくり」を進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちの課題や目標が市民と行政で共有され、市民が市政を身近に感じ、市政に対する関心・理解、満足感が高まっています。 ◇ 市民のまちへの愛着が高まり、まちのことを「自分ごと」として考え、まちを大切にし、自分にできる“まちづくり”を行っています。 ◇ 職員一人ひとりが地域課題について考え、市民や地域の想いに寄り添いながら、課題の解決に取り組んでいます。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組めます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくります。【総合政策グループ】	
<ul style="list-style-type: none"> ◆高浜市市民記者制度実施要綱を制定し、広報たかはまにおいて記者募集を行い、応募のあった市民2名を市民記者として任命した。 ◆市公式フェイスブックと市民記者制度との連動について検討を行った。 ◆総務省から地域情報アドバイザーを招き、今後の広報のあり方を見直した。 ◆広報主任者会議において地域情報アドバイザーによる講義を開催した。 ◆西三河広報研究会において、「HPへのCMS導入の事前準備について」という議題をあげ、各市町の取り組みを参考にし、市公式ホームページのリニューアル及び投稿型行事カレンダー運用に向けた検討を行った。 	2018.8~ — 2018.12 2018.12 2018.11
(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。【総合政策グループ】	
<ul style="list-style-type: none"> ◆開催された「のびゆく高浜編集委員会」に出席し、趣旨説明を行った。 ◆第5期生5名を新たに任命し、各まち協に新たに1名ずつ派遣した。 ◆たかはま未来カフェを開催し、市民42名が参加し、10年先の高浜市の理想の姿と、それを実現する方法を話し合った。 ◆若者をターゲットにしたざっくばらんなカフェ Vol.56 を開催した。 ◆若者会議メンバーの募集をおこなった。 ◆まち協サミットにて、今後の予算の策定方法について協議を行った。 	2018.7 — 2018.8 2018.9 2018.8 2019.2 —
(3) 職員のワークバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆タイムマネジメント(オーナーシップ) ◆管理職を対象としたイクボス研修を2回実施した。 ◆女性活躍推進に向け、県研修センターで研修を実施した。 ◆組織体制の見直しについては、12月12日に開催した「まちづくり推進会議」で、管理職リーダー研修は対象を主査・主任として実施した。 ◆若手職員成長支援研修を実施した。 ◆まち協特派員研修は年間を通じて実施した。 ◆市制50周年記念事業職員プロジェクトを設置し若手・中堅職員実践研修として活動開始した。 	2018.●~

【行政の記載内容】

後期基本計画で掲げた目標の達成に向けて、平成30年度にどんなことに力を入れて取り組んできたか、主な内容を記載します。

【推進会議の着眼点】

平成30年度に実施した取組内容は、目標達成のための手段として適切だったか。

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)
市民意識調査	【設問】まちを愛する想いが生まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う				
					目標値
みんなで目指すまちづくり指標	地域活動に参加したことがある人の割合				
					目標値
	地域活動に参加したことがある人の割合				
					目標値

目標の達成度合いをはかる「市民意識調査」と「みんなで目指すまちづくり指標」の数値の推移を示します

【行政の記載内容】

「市民意識調査結果」や「指標の推移」を踏まえ、指標（目標）が達成できた要因・達成できなかった要因の分析、「市民意識調査結果」や「指標の推移」から見えてきた課題を、箇条書きで分かりやすく記載します。

※指標の目標値を見直す場合は、見直しにあたっての考え方と新たな目標値を記載します。

【推進会議の着眼点】

- ① 「Ⅱ. 目標達成のための主な取組み」の成果との関連を踏まえた分析が行われているか。
- ② 指標等の結果から見えてきた課題が、適切に分析されているか。
- ③ 課題解決に向けた考え方・方向性が示されているか。
- ④ 「みんなで目指すまちづくり指標」や目標値の見直しは必要ないか。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
(1)	◆	
<p>【行政の記載内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 平成 30 年度 of 取組みや市民意識調査結果・指標の状況から見えてきた課題、新たに発生している課題を、<u>優先度の高い順</u>に 3 つ挙げます。 ◇ どのように課題解決に取り組んでいこうと考えているのか、新たな取組み（案）や見直し・改善（案）を記載します。 ◇ 課題解決に向けた新たな取組み（案）見直し・改善（案）に掲げた内容に、<u>いつから（いつまでに）</u> 取り組むのかを記載します。 <p>【推進会議の着眼点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「課題」は、「市民意識調査」や「みんなで目指すまちづくり指標」の分析を踏まえたものとなっているか。 ② 「課題解決に向けた新たな取組み（案）や見直し・改善（案）」は、課題を的確に踏まえたものとなっており、具体的な事業を想定して記述されているか。 ③ 特に、指標等が低下したものについては、新たな取組み（案）や見直し・改善（案）がしっかりと練られているか。 ④ 記載内容の他に、目標の達成に向けて改善すべき課題や今後の取組みにつながるアイデアはないか。 		

V. 第 6 次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

推進会議委員からのコメントをまとめます。

目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも 住み続けたいと思えるまちをつくりま

Ⅰ. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい!」と思える高浜市を未来へとつないでいくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力できる「つながるまちづくり」を進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちの課題や目標が市民と行政で共有され、市民が市政を身近に感じ、市政に対する関心・理解、満足感が高まっています。 ◇ 市民のまちへの愛着が高まり、まちのことを「自分ごと」として考え、まちを大切に、自分にできる“まちづくり”を行っています。 ◇ 職員一人ひとりが地域課題について考え、市民や地域の想いに寄り添いながら、課題の解決に取り組んでいます。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくりま	
<ul style="list-style-type: none"> ◆高浜市市民記者制度実施要綱を制定し、広報たかはまにおいて記者募集を行い、応募のあった市民2人を市民記者として任命した。 ◆市公式フェイスブックと市民記者制度との連動について検討を行った。 ◆総務省から地域情報アドバイザーを招き、今後の広報のあり方を見直した。 ◆広報主任者会議において地域情報アドバイザーによる講義を開催した。 ◆今後実践していくべき広報活動のあり方をまとめた、「高浜市広報戦略」を策定した。 ◆西三河広報研究会において、「HPへのCMS導入の事前準備について」という議題をあげ、各市町の取り組みを参考にし、市公式ホームページのリニューアル及び投稿型行事カレンダー運用に向けた検討を行った。 	H30.8 — H30.11 H30.12 H30.12 H30.11
(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆「のびゆく高浜編集委員会」と高浜市自治基本条例の掲載について調整した。 ◆第5期生5人を新たに任命し、各まち協に新たに1人ずつ派遣した。 ◆たかはま未来カフェを開催し、市民42人が参加し、10年先の高浜市の理想の姿と、それを実現する方法を話し合った。 ◆若者をターゲットにしたざっくばらんなカフェVol.56を開催した。 ◆市制50周年記念事業検討に連動し、若者会議メンバーの募集をおこなった。 ◆まち協サミットにて、今後の予算の策定方法について協議を行った。 	— H30.4 H30.8 H30.8 H31.2 H30.10
(3) 職員のワークバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆タイムマネジメント(オーナーシップ)研修を主事級職員を対象に実施した。 ◆管理職を対象としたイクボス研修を2回実施した。 ◆女性活躍推進に向け、県研修センター主催の女性活躍推進研修に2人の女性職員が参加した。 ◆行政の合理化・効率化・明確化を推進するために組織体制の見直しを実施した。 ◆管理職リーダー研修は対象を主査・主任まで広げ4回実施した。 ◆採用後1年目の職員を対象とした若手職員成長支援研修を年間を通じて実施した。 ◆まち協特派員研修は年間を通じて実施した。 ◆市制50周年記念事業職員プロジェクトを設置し若手・中堅職員実践研修として活動開始した。 	H30.12 H30.7-8 H30.12 H31.3 H31.2 — — H30.12

▼市民記者制度



▼50周年を考え実行する市民会議の立ち上げ



▼未来カフェ



Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】まちを愛する想いが生まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う (%)					
	62.2	61.8				
みんなで目指すまちづくり指標	市の情報発信に満足している人の割合 (%)					目標値
	47.3	62.0				65
	地域活動に参加したことがある人の割合 (%)					目標値
	62.9	58.6				70
	市民と一緒にやって地域活動に取り組んでいる職員の割合 (%)					目標値
	54.0	55.0				66
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)						
<p>○市民意識調査 61.8% (策定値比▲0.4 ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ横ばいとなっており、まちづくり指標との因果関係について分析は難しいが、情報発信に対する満足度の向上や地域活動への参加の減少などの理由により、結果として横ばいということであると分析している。情報発信の充実には引き続き努め、市民及び職員の地域活動への参加意欲をより高めることで、割合の上昇が望めると考える。 <p>○まちづくり指標「市の情報発信に満足している人の割合」62% (策定値比+14.7 ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別にみると女性で 18.0 ポイント上昇している。年代別では 20 代~60 代でいずれも 10 ポイント以上上昇しており、特に 40 歳代においては 26.4 ポイント上昇しており、子育て世代の女性の満足感が特に高まっているということが分かる。 <p>○まちづくり指標「地域活動に参加したことがある人の割合」58.6% (策定値比▲4.3 ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別では女性で 6.5 ポイント、20 代~60 代でいずれも減少しており、特に 30 代で 17.5 ポイント減少と、情報発信に対する指標とは全く逆の結果となっている。共働き世帯が増えているのか、意識的な問題なのか、働いている世代が地域活動に顔を出す機会が減っているという状況がわかる。 <p>○まちづくり指標「市民と一緒にやって地域活動に取り組んでいる職員の割合」55.0% (策定値比+1.0 ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値に近づけるためには、職員研修を充実させ、職員の意識の変革と働き方改革をさらに進める必要がある。 						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み (案) 見直し・改善 (案)	いつまでに
(1) 多様な情報発信 ・時代の変化とともに情報の取り方は変化してきている。発信内容・発信媒体・多言語など、多様なニーズに少しでも応えられるようにしていくことが必要であると考え	◆ホームページのリニューアルを行い、見やすく分かりやすい情報発信の「核」とする。	R2.12
	◆市公式LINEの実施について、その効果や運用について研究し、必要に応じ実施していく。	R2.3
	◆さらなる多言語翻訳対応について、最新の技術を調査研究し、導入に向け検討していく。	R2.3
(2) 参加・参画意欲の創出 ・定年延長や共働き世帯の増加など、こちら雇用情勢や個人の意識は変化してきている。いかにまちづくりに参加・参画してみたいという気持ちになってもらうか。様々な切り口で考え、次代のまちづくりの担い手を育む必要がある。	◆市制施行 50 周年記念事業にかかる市民会議について、検討から実践の段階に移って。実践の段階でさらなる人材の発掘や育成をはかっていく。	R2.3
	◆年々増加する外国人の方も大切なまちづくりを担う市民の 1 人である。外国人の方が地域活動に参加・協力できるようにするためにはどうしたらよいかを調査研究していく。	R2.3
(3) 職員研修の充実 ・「仕事と生活の調和」が職員のモチベーションを高め、自己の持つ能力を十分発揮させるとともに、地域活動への積極的な参加を可能にする。そのための研修の機会を階層別に創出し、職員力の底上げを図る必要がある。	◆管理職、主査等を対象に、マネジメント力や効率的な仕事の進め方などを学ぶ「オーナーシップ研修」を実施する。	R1.12
	◆市制 50 周年記念事業を若手・中堅職員の実践研修の場として位置づけ、本年度はイベントを企画し、地域に協力を働きかけ、実施する。	R2.3
	◆若手職員を対象に「働き方改革」研修を定期的実施し、ICT化や業務改善につなげる。	R2.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- 紙以外での情報の発信について精査いただきたい。
- 子育て世代の女性の満足が高まっているものの地域活動に参加されていないことについて、仕事を持っている方が多いため負担を感じて参加されないかと推測する。将来の地域活動を担っていく世代が、今後参加したいと思えるような町内の取組みや組織の在り方などの検討を。
- 新たに転入されてきた方が町内会に入りたいと思えるような取組みを。
- 町内会未加入者や外国人への情報発信を重点的に取り組んでいただきたい。
- 多言語翻訳対応について、外国の方が集中する地域での活用方法をより具体的にしていきたい。外国人を雇用している企業だけでなく、通訳機を貸出している学校で外国人の保護者の声を聞いたりして生活に寄り添ったニーズを得ることも大切だと思う。施設に機器など設置するだけでなく、活用方法の提案や、地域の方々との交流機会なども提案いただきたい。
- 職員の働き方改革を進めながら、地域にも顔が出せるようにすることがとても大事だと思う。職員の働き方として、通常業務と地域活動のバランスが充分であるかのチェック機能も必要では。
- 市政を身近に感じるのは市が行う様々な施策の当事者になる場合であろう。学生、勤労者、リタイヤ組、主婦といった市民のポジションに応じた細かい情報発信を各事業部局がタイムリーに行うことが大切だと思う。

MEMO

目標(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います

Ⅰ. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	今後の財政見通しでは、公共施設の老朽化に係る財政負担、少子高齢化の進展に伴う社会保障関連経費の増加が見込まれ、市の財政運営に大きな影響を及ぼすことが予想されます。そこで、財政運営に関する情報等を市民と共有するとともに、“入るを量りて、出するを制す”の考え方にも留意し、歳入・歳出の両面から財政基盤の強化に取り組むことが欠かせません。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市の財政運営に対する理解が深まっています。 ◇ 市税などの財源が確保されるとともに、事業の見直しと重点化により真に必要な事業が実施され、少子高齢化に見合った持続可能な財政運営が行われています。 ◇ 機能複合化による公共施設の再編、改修による長寿命化等の取組みが市民に理解され、公共施設総合管理計画が着実に推進されています。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知りたい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆平成30年度の「財政情報発信計画」を策定した。 ◆「平成29年度高浜市の予算の使いみち」に、市の税金の正しい理解を広めるためのページを設けた。また、中学生でも読みやすくなるように漢字にルビを振るなどの工夫をした。 ◆「市の財政情報の発信を考える」ワーキンググループのあり方について検討した。 	H30.4 H30.4 H30.4~H31.3
(2) 工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆公共施設使用料の見直しに向け、施設別利用率の調査及び施設別決算額の調査等を行い、改定案を作成した。 ◆経常経費の見直しのため、先進的な取組みを行っている自治体を調査・把握し、基本方針案を作成した。 ◆平成31年度の当初予算編成に向け、職員に対し、市の財政状況についての説明会を開催した。 ◆LGWAN回線を活用したペーパーレス会議システムを導入した。 ◆学校でのコミュニケーションを円滑に行うため、外国語翻訳端末を活用し、検証を行った。 ◆地図情報をプラットフォームとする統合型GISを導入した。 ◆AI、RPAの導入について、検討・実証実験等を行った。 (AI、RPA等の導入可能性について、全庁で意向調査を実施。市民の問合せのテキスト化及び分類、適切な回答の作成の自動化検討。音声こころ分析サービスの実証実験。表彰業務の自動化検討。健診票の読取り及び請求書作成の自動化検討。) ◆中部電力と3G回線を利用した見守りサービスの検討、実証実験を行った。 	H30.6~H31.3 H30.4~H31.3 H30.9 H31.3 H30.6~H31.3 H31.3 H31.3 H30.10~H31.1
(3) 公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆平成29年度に改定した「公共施設総合管理計画」及び「平成30年版公共施設・インフラ施設推進プラン」を公表した。 ◆「平成30年度公共施設推進プランスケジュール」を作成し、議会に報告した。 ◆公共施設総合管理計画を着実に推進するため、個別施設計画の策定に向けたセミナーに参加するほか、近隣5市の公共施設総合管理計画所管部署と情報共有を図った。 ◆施設のあり方や機能移転について、施設所管グループ等と意見交換、ヒアリング等を実施し、「平成31年度版公共施設・インフラ施設推進プラン」を作成し公表した。 ◆高浜小学校等整備事業の工事に関する定例会を週1回、工事及び運営に関する総合定例を月1回のペースで開催し、第一期工事を竣工した。 ◆高浜小学校児童を対象にワークショップを開催し、諸室のサイン表示や窓のデザイン、瓦の卒業制作など多くの機会が児童が建設工事に関わることができた。また、児童を対象とした工事現場見学会を開催し、完成前にしか見られない現場の様子を見せることができた。 ◆新校舎完成後、竣工式・内覧会を開催し、多くの市民の方が新しい校舎の中を見学した。 	H30.4 H30.6 H30.5~H31.2 H30.11~H31.3 H30.4~H31.3 H30.4~H31.3 H30.4~H31.3 H30.4~H31.3



ペーパーレス
会議システム



高浜小学校および
地域交流施設整備

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	将来を見据えた財政運営を行っているまちだと思う。(%)					
	46.6	45.1				
みんなで目指す まちづくり指標	経常収支比率 (%)					目標値
	88.8	89.3				80 台維持
まちづくり指標	将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合 (%)					目標値
	46.6	45.1				55
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)						
○市民意識調査「将来を見据えた財政運営を行っているまちだと思う」45.1% (策定値比▲1.5 ポイント)						
○まちづくり指標「将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合」45.1% (策定値比▲1.5 ポイント)						
<ul style="list-style-type: none"> 性別では、男性が 1.6 ポイント低下、女性が 0.9 ポイント低下と、ともに低下しているが、男性の「そう思う」の割合は 0.7 ポイント上昇している。 年齢別では、70 歳代で 8.9 ポイントの大幅な低下となった。その一方で、中年層である 40・50 歳代では 3 から 4 ポイント上昇した。また、「そう思う」の割合は、20 歳代で 4.3 ポイント、50 歳代では 5.9 ポイントと大幅に上昇している。 小学校区別では、翼小学校区で 7.6 ポイント低下し 40%を下回った。地区においてバラつきが始めてきた。 将来を見据え、公共施設総合管理計画や長期財政計画を作成し公表しているが、性別や年齢などを問わず誰もが財政状況に関心を持ち、理解することに繋がる取組みや工夫が必要となってきた。 						
○まちづくり指標「経常収支比率」89.3% (策定値比+0.5 ポイント)						
<ul style="list-style-type: none"> 「経常収支比率」は、直近 5 年間の平均値を用いて算出している。平成 29 年度の率が 93.2%に上昇したことにより、平均値が 0.5 ポイント悪化した。平成 29 年度の率が上昇したのは、主に法人市民税の収入が減少したことが要因である。 「目標値」である「80 台維持」は達成しているが、80%代後半の高止まりである。市税収入によって率が左右されないように、歳出面における取組み (経常的に支出される経費の見直しなど) の具現化が必要である。 						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み (案) 見直し・改善 (案)	いつまでに
(1) 財政運営への関心度の向上 <ul style="list-style-type: none"> 性別や年齢などを問わず、誰もが財政状況に関心を持ち、理解することに繋がる取組みや工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆既存の情報発信 (広報、ホームページ、当初・決算の概要、中学生向け予算の使いみちなど) を見直す。また、新たな情報発信について検討する。 ◆将来を見据えた計画である「長期財政計画」を、漫画やイラスト、グラフなどを用いてわかりやすく解説する冊子を作成し公表する。 	R2.3 R1.10
(2) 公共施設総合管理計画の推進 ○個別施設計画の計画的な策定 <ul style="list-style-type: none"> 国からは令和 2 年度までに策定することが求められている。 策定にあたっては、公共施設総合管理計画や長期財政計画と整合を図る必要がある。 ○高浜小学校等整備事業の着実な推進 <ul style="list-style-type: none"> 新設の建物及び既存建物を周辺地域に配慮して安全に建設・解体する必要がある。 学校・地域交流施設運営者・事業者が、施設の運営について協議を行う場を設ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆全庁的な体制を構築し、公共施設マネジメント推進会議からの意見等も踏まえ、効果的かつ計画的に策定する。 ◆既存校舎を周辺地域の環境 (近隣住民等) に配慮し安全に解体するとともに、新設の建物を安全に配慮して建設する。 ◆施設運営事業者や関係団体等と、第 1 期完成施設の運営における課題改善や、第 2 期完成予定施設の供用開始に向けた運営方法について意見交換を行う。 	R2.3 R2.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- 中学生でもわかりやすい財政資料を学んだ中学生の声を市民の方に発信することも財政運営への関心を寄せる方法になるのでは。
- 納税している方々に市の財政運営への関心をもっと持っていただけるように検討を重ねていただきたい。
- 高浜小学校の整備について、高小地区だけでなく、他地区の方々にも多く利用していただけるようなPRを行い、機能統合された施設を充分に利用し、たくさんの市民にとって親しみやすい施設となるよう切に願っている。
- 高浜小学校の整備について、新設なので、防災拠点としての活用などにも期待している。
- 複合施設は作って終わりではなく、その後どのようなソフトを用意していくかが大事である。
- 市の財政に関心がなければ不交付団体であることや財政力指数が良好であることは何の意味も持たない。一方で市が懸念している財源確保や歳出の抑制などはもっと伝わらない。(1)の関心度の向上は重要。単純な財政情報を流すよりも工業用地の開発、市税の徴収状況、利用料の改定など個々の事案を財政に絡めて情報発信しては。
- 住民やほかの市、県、海外から「住み続けたい!」「住みたい!」というまちづくりをすれば税収アップにも繋がるのでは。

MEMO

目標(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます


I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	学び・文化・スポーツは、人づくりやまちづくりの土台となるものです。市民・地域・関係機関・事業者と連携し、学びなどを通して市民同士が個々の力を高め合うとともに、つながりを深めながら「高浜市が好き」「誰かのために役立ちたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」といったまちづくりの原動力を育てていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 個人が培ってきた知恵・特技・体験などが、人づくりやまちづくりに活かされ、子ども・若者や大人がともに成長しています。 ◇ 学び・文化・スポーツ活動を通して市民同士の交流が深まり、「高浜市が好き」「市民や地域のために何かやってみよう」という市民が増えています。 ◇ 先人たちのあゆみやまちの魅力・自慢が市民共有の財産として継承され、まちづくりに活かされています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 市民とともにまちの魅力・自慢(歴史・文化・伝統・産業・景観など)を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。	
【市誌編さん】 ◆部会及び専門分野に分かれ、市内外での資料調査・聞き取りを進めた。事業の中間報告として、シンポジウム「窯業のまち・たかはまの産業風土とまちづくり」を開催した。 ◆「窯業」をテーマに大学生と市民が協働で4組に聞き取りを行い、シンポジウムと同日に成果発表会を開催した。聞き取り内容をまとめた冊子「高浜のやきもの産業と暮らし」を発行した ◆広報の奇数月1日号には「市誌編さんだより」を、毎月1日号には新たに「たかはまアーカイブ」(市民も執筆に参画)の連載を開始し、編さんの進捗や成果のアウトプットに努めた。 【タカハマ!まるごと宝箱】 ◆市誌編さんと連携し、市民同士が学び合う環境づくり、調査成果の定期的な発信を行った。	H30.12 H31.3 —
【美術館】 ◆瓦業界など事業者と連携した取組みを拡大した。(例：企画展と飲食店とのタイアップ、屋根の日イベント、「屋根を飾る展」における日本鬼師の会との連携 など)	H30.8~11
(2) 市民(特に子ども・若者)の「知りたい」「やってみよう」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。	
◆図書館では、夏休みに実施した「なに?なに?発見隊バグ」など、子どもの好奇心や意欲を高める取組み、「音読教室」など読書を通じた市民交流機会の創出に努めた。 ◆美術館では、市民の知識・特技を活かした取組み(例：文協祭に合わせて会員が講師となった体験ワークショップの実施、華展や茶会など森克徳展盛り上げ企画の実施)、子どもとのつながり(例：夏休み自由研究講座、「森克徳展」児童・生徒の鑑賞)、子育て世代へのアプローチ(例：子育てママ座談会)など、市民参加・裾野拡大に取り組んだ。	— —
(3) 「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。	
◆市民レガッタ、シティマラソン等を各団体と協働で実施した。 ◆スポーツ推進委員会を中心に、ファミリーバドミントン、ノルディックウォーキングの講習会を実施した。また、社会福祉協議会と連携し、ポッチャの普及に努めた。 ◆勤労青少年ホーム跡地活用事業について、民間事業者とスポーツ拠点施設のオープンに向けて協議・準備を行った。	— — —

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	
市民意識調査	【設問】学び(生涯学習やスポーツなど)を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う。(%)					
	55.2	53.4				
みんなで目指すまちづくり指標	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合(%)					目標値
	71.4	66.4				76
	将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合(%)					目標値
	76.1	75.8				81
	持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合(%)					目標値
	28.5	27.9				35

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

○市民意識調査 53.4%（策定値比▲1.8 ポイント）

- ・男性（49.3%）に比べて女性（55.5%）の方が、意識が高い傾向となっている。

○まちづくり指標「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」66.4%（策定値比▲5 ポイント）

- ・いずれも減少となったが、特に減少幅が大きかった「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」については、策定値比 5.0 ポイント減少で、若い年代ほど低い傾向にある。居住年数の長短の影響もあるが、行事やまちづくり等への参加・参画機会が豊かかどうかを鍵になると考える。「自分のまちを知る」、「人とつながる」、「自分の知識・体験などを活かす」「誰かや社会のために役立っている実感」などを通して醸成されると考えられるため、それらのきっかけづくりが必要である。

○まちづくり指標「将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合」75.8%

（策定値比▲0.3 ポイント）

○まちづくり指標「持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合」27.9%

（策定値比▲0.6 ポイント）

- ・「将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合」と「持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合」の指標については、いずれも微減であった。市民（特に子どもたち）の好奇心や学ぶ意欲が高まるような機会の充実、「こうなりたい」というロールモデルの提示・紹介（情報発信）、学びを活かせる機会を設けていくことなどにより、改善の方向に向かうと考える。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p><u>(1)「まちへの愛着・誇り」を高める</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市では、人口が緩やかに増加しているが、大半は社会増（転入）である。子どもから大人へ、大人から子どもへといった世代間交流も含め、様々な角度からまちへの想いを育む裾野を広げていくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆市誌編さん等を通じて、資料を探す・提供する、調べる、まとめる、写真や映像に残す、まちのことについて語り合うなど、それぞれの興味・関心・特技などに応じて、様々な世代が関わり合う機会を増やす。完成した市誌を用いた出前講座などを通じて、子どもたちにわがまちを知ってもらおう。 ◆来年は市制 50 周年、たかびあ（高浜小学校内）2期オープン、オリンピックの年である。近年、学び・スポーツ分野で活躍する市民が増えており、市誌編さん、図書館、美術館、スポーツなどの各種事業を通して、まちの様々な自慢・魅力を知り、まちへの想いを深められる機会を創出する。 	<p>R3.3 （市誌の活用は R4.3）</p> <p>R3.3</p>
<p><u>(2) 学んだ成果の社会等への還元</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分のための学び」ととどまることなく、「教える」「発表する」「活動する」など、社会の中で、あるいは次の世代のために様々な形で活かせる機会を創出することが大切である。 ・将来、教える側・活動を担う側に回るといった循環を見据え、市民（特に子ども・若者）の好奇心や意欲の高まりにつながる講座・体験・事業などを豊かにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆図書館では、貸出機能重視ではなく、図書を通じた市民交流や、子どもたちの調べ学習といった課題解決型図書館を意識した運営を進める。子どもや保護者に向けたアプローチに力を入れる。 ◆美術館では、学校に活用を働きかけるとともに、ワークショップを市民と一緒に企画するなど、市民が知識・技能等を発揮できる場を充実させていく。 ◆このほか、市誌編さん、タカハマまるごと宝箱、たかはま夢・未来塾、スポーツなど各種事業を通じ、市民団体・地域・事業者等と連携・協力しながら活動の担い手・教え手の掘り起こしや活躍機会の創出に取り組む。 	<p>R3.5</p> <p>R3.3</p> <p>—</p>
<p><u>(3) 生涯学習・スポーツ施設のあり方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公共施設総合管理計画」に基づき、施設の総量圧縮等を進める中で、市や市民にとって必要な機能は何かを考えるとともに、限られた財源の中で市の将来を見据えて取り組んでいることを、市民に丁寧に伝えていくことが大切である。 ・施設の複合化・集約化によって、できる限り今までのサービスへの影響を抑えつつ、新たな活用が生まれるような運営を行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆図書館や美術館のあり方については、ボランティアなど、運営に関わっている市民・団体を中心に、今後必要な機能は何かについて意見交換しながら、方向性をまとめる。 ◆「たかびあ」（高浜小学校内）について、複合化の効果を意識した運営を行う。2期オープンについて、市制 50 周年も絡めて市民とともに盛り上げる企画を検討する。また、メインアリーナ・サブアリーナへの機能移転に向け、体育センター定期利用者など施設にゆかりの深い団体を対象にした説明・意見交換を行う。 	<p>R3.3</p> <p>R3.3 （機能移転説明は R2.3）</p>

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- 市誌編さんには、たくさんの市民が関わる工夫がされているので、多くの人に知っていただきたい。今後の取組みがどんどん伸びてほしい。
- ボッチャの普及に努めたとあるが、グラウンドゴルフやラダーゲッター、スポーツ吹き矢など、年配の人にも楽しんでもらえるような市民の交流スポーツとして、ニュースポーツと連携できればと思う。
- 現在の生涯学習のシステムはオーバーホールしており、作り直さなければならないと思う。お楽しみの教室だけで終わっているものがあり、自己実現のためだけの生涯学習ではなく、社会的貢献度のあつものにしていふ必要があるのでは。
- 「課題と今後の取組み」の「いつまでに」が令和3年となっているが、一年ごとの目標設定でスモールアップでの実績を重ねることも必要では。取組みまでの期間が遠いと感じる。
- まちづくり指標が全てマイナスとなっている。まちづくりにおける若い世代のきっかけづくりや知識・技能の活用の場の創出などは中期計画の時から指摘されてきた事柄である。若者がまちづくりになぜ参加しないのか、知識や技能を社会活動に活かすにはどうしたら良いか、事業実施主体が詳細に分析する必要がある。
- 学び・文化・スポーツへのサポートはよいが、行政が干渉しすぎず、市民が自主的に盛り上がるようになるとよい。

MEMO

目標(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	学校、家庭、地域が「子どもの学びや育ちをつなげる」という意識をもち、力を合わせます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子どもが、自分の成長に気づいたり、目標を抱いたりしています。 ◇ 子どもが、地域に関心をもち、自分ができることを考え、実践しています。 ◇ 子どもが、主体的・対話的で深い学びをしています。 ◇ 子どもが、個に応じた教育を受け、個性を伸ばさせています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。	
◆ 小学校との違いで戸惑いがないかを調査する中1アンケート(意識調査)を実施し、その結果を分析したことで、異校種間連携事業の取組を見直すことができた。	H30.8
◆ 異校種参観が各園・各校間で確実に行われるようになっている。教職員が異校種参観をすることで、自らの指導を振り返り、発達段階に応じた支援・指導を見直す機会とした。	H30.12
◆ 上級校への円滑な接続の実現を目指して、異校種間での取組(生活科の授業に園児を招待する活動など)をより充実したものとなるよう見直し、実践できた。	H31.2
(2) 高浜カリキュラムで、高浜のひと・もの・ことを活かした教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。	
(3) 高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。	
◆ 高浜版プログラミング教育における「めざす子どもの姿」や小学校の各段階における到達目標を作成し、コンピュータ教育ソフトやたかはま夢未来塾と連携したロボット体験等のカリキュラムを策定することで、小学校の高浜版プログラミング教育を構想した。	H31.2
◆ 小中連携したCAN-DOリストを作成し、令和元年度から活用するため、各校に配付した。	H31.3
◆ 「高浜カリキュラム」「高浜カリキュラム教科版」を各校で実践し、今年度の取組として積み重ね、再編した。	H31.3
◆ 「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を意識した生活を送るために、市内に通う園児・児童・生徒全員に活用型のカレンダーを一冊ずつ配付した。	H30.4
(4) 支援の必要な児童生徒の特別支援ファイルの作成と引継を確実に行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。	
◆ 高浜高校において市内中学校から引き継いだ特別支援ファイルの継続活用を試験的に実施した。	H30 年度を通して
◆ 高浜高校と市内中学校で支援情報の連絡会の在り方について検討をした上で会を実施した。	H31.3
◆ 幼保と小、小と中、中と高の間で連絡会を実施し、支援情報の引き継ぎを行った。	H31.3
◆ 年度当初の特別支援CD会で、特別支援ファイルの引き継ぎモデルについての周知を実施した。	H30.4
◆ 通級担当者研修を年3回、4月、7月、1月に実施した。	H30 年度
◆ 特別支援学級担当教員研修をこども発達センターと共同開催で実施した。	H30.8

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)
市民意識調査	【設問】学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間(4歳~15歳)の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う(%)				
	58.8	62.0			
みんなで目指す まちづくり指標	自分や周りのよさを認める子どもの割合(%)	目標値			
		78.5	90.3		85
	地域や社会に関心をもつ子どもの割合(%)	目標値			
		59.2	74.5		70
	学習が将来、役立つと感じている子どもの割合(%)	目標値			
	76.7	80.4		85	



▲プログラミングの授業

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

○市民意識調査 62.0%（策定値比+3.2ポイント）

- ・市民意識調査が上昇した一つの要因は、平成29年度まで1家庭に1冊で配付していた「高浜市が育てていきたい生活習慣・学習習慣」カレンダーを平成30年度より、市内に通う3歳以上の子ども全員に配付したことで、学校の行事や子どもたちの学ぶ姿等、学校の取組を市民に情報発信できたからだと考える。
- ・子どもから子育て世代の10～30歳代のポイントが上昇していることから学校に関わる世代には12年間の学びや育ちを意識した取組が理解されていることがわかる。
- ・高浜小学校区で、8.8ポイントの上昇が見られ、新しい校舎で新たな学校づくりが市民に受け入れられている結果と考える。義務教育までの子育てから離れる40～60歳代世代への周知が課題となる。今後も学校・家庭・地域の連携を図り、学校の取組を充実させ、その様子を情報発信していく。

○まちづくり指標「自分や周りのよさを認める子どもの割合」90.3%（策定値比+11.8ポイント）

- ・支援が必要な子に対して特別支援ファイルを作成し、次年度への引継ぎを確実にしている。継続した支援は、子どもにとって安心感や自信をもつことにつながると考えられる。また、特別支援について様々な教員を対象に研修を行っている。研修を受けた教員が、通常学級においても個に応じた指導を学校で展開している。これらのことが子どもの自己肯定感を高め、自分のよさに気づいた子は結果として周りのよさも認められるようになったと考えられる。

○まちづくり指標「地域や社会に関心をもつ子どもの割合」74.5%（策定値比+15.3ポイント）

- ・児童・生徒の意識や行動に関するアンケートの「高浜のひと・もの・ことに関心」が全体で31.5ポイント上昇している。昨年度よりプログラミング教育、外国語活動を小中連携で新たに取り組み、広く物事に関心をもつ児童生徒が増加したからだと考える。また、高浜カリキュラムにおいて「地域の行事や地域で活躍する人」「福祉や防災」など、高浜のひと・もの・ことに焦点をあてた学習を教員が毎年見直しを図りながら、子どもたちの実態を捉え、実践を重ねた成果とも考える。今後も、社会の情勢、子どもたちの実態を捉え、新たな教育に対応できる教員を育て、実践していくことが課題である。

○まちづくり指標「学習が将来、役立つと感じている子どもの割合」80.4%（策定値比+3.7ポイント）

- ・「学習が将来、役立つと感じる子ども」の割合が上昇しているのは、幼・保育園と小学校、小学校と中学校の異校種間連携事業が定着し、園児児童生徒が将来の自分の姿を上級生の姿から想像し、目標をもって学習に取り組んでいるからだと見える。目標値85%を達成するために、児童生徒がもつ困り感を理解し、効果的な取組を教員が工夫していくことが課題である。

- ◆「児童・生徒の意識や行動に関するアンケート」において、全体的にポイントがかなり上昇している。児童生徒の自己肯定感が高まったことによるものか、来年度の指標に注視し、比較・分析しながら、第7次総合計画に向けた方策を考えたい。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>(1) 新たな高浜カリキュラムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の移行期間である今、市内の方向性を統一していく必要がある。児童生徒の興味関心と高浜市が育てたい力を見極め、新たなカリキュラムを実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高浜版プログラミング教育の全体構想を基に、平成31年度より全小学校4・5年生で実施する。ロボットプログラミングについては2校でモデル授業を行い、令和2年度完全実施を目指す。 ◆外国語教育を推進するために作成した、小中連携の市内統一CAN-DOリストを活用した授業実践に取り組む。 	R2.3
<p>(2) 異校種間連携事業の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場においても働き方改革が推進される中、より効果的な異校種間の連携の在り方を考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生徒理解のため「中1アンケート」を実施している。事業の見直しにつながる実施方法・質問内容を検討する。 ◆学校で行事の見直しが図られ、異校種間連携事業の精選も必須となっている。実施方法の見直しを図る。 	R2.3
<p>(3) 個のニーズに応じた教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校で作成している特別支援ファイルの学校間の確実な引継ぎを進めているが、支援情報をどのように関係機関と共有していくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆園、学校、発達センター、社会福祉協議会等で支援が必要な子の支援情報をどのように共有していけるかを検討する。 	平成31年度を通して話し合う

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- 特別支援教育、健常児教育と別々にしていることが残念。特別支援教育の充実がすべての子どもたちの個に応じた教育の充実につながると思います。
- 個人情報という点で連携が難しいと思うが、情報が共有できる中での連携を充実させてほしい。
- 特別支援学級の先生は専門の先生ではないため、1年で個別に対応する力を身につけることは大変難しいところではあると思うが、特別支援学級だから、通常学級だからという区別がなるべくないような先生たちの活躍を願っている。
- 支援の必要な子の支援情報や個別支援ファイルについて、教育の世代を離れても、福祉グループや社協など関係機関とも共有し、特性や支援情報を活用していただきたい。
- 市民意識調査が単にカレンダーを配ったことで上昇したと喜んでいいのか。学校には不登校やいじめの問題が残されており、生徒が良い方向にあることだけが強調されているように思える。教員の質の向上のみならず、学校と家庭、学校と地域の関りを充実させる施策が必要だと思う。良いことだらけで気味が悪い。

MEMO

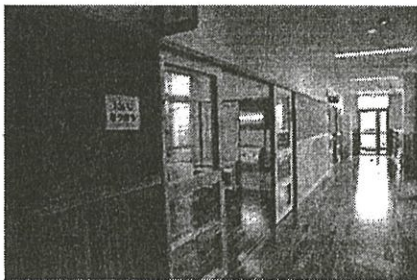
目標(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます

I. 目指す姿【PLAN】

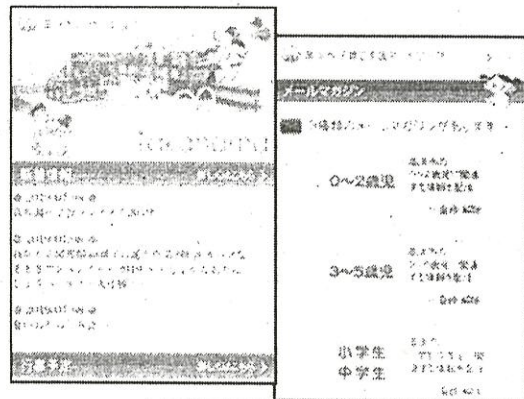
目標達成に向けての考え方	行政、地域、保護者の職場となる企業なども積極的に関わり、子どもが健やかに遊び、成長し、また、保護者が安心して子どもを産み育てることができるよう、子育て・子育てを総合的に支援する環境を整えていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 安心して子どもを産み育てられる教育・保育環境や保護者が働く職場環境が整っています。 ◇ 身近な大人をはじめ、市内の大人が子どもの目線を大切に、子どもの遊びや成長を温かく見守る視点が常に共有されています。 ◇ 日頃から子どもが気軽に集え、自然に世代間交流ができ、子どもがのびのびと活動できる身近な場所が整っています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1)「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、多様で柔軟な保育サービスの提供など、教育・保育ニーズに対応し、待機児童ゼロをめざします。	
◆平成30年7月に清心会が(仮称)たかとりこども園舎新築工事に着工し、平成31年3月に竣工予定。平成31年2月に高取保育園解体工事の入札公告を実施。4月の開園に向けた準備が進んでいる。	H30.4~
◆平成31年1月から高浜幼稚園の民営化及び認定こども園化の移管事業者を募集。3月中に移管事業者を決定。移管に向けた準備が進んでいる。	H31.1~
◆平成30年11月に吉浜北部保育園園舎の耐力度調査が完了。躯体の耐力度が確認された。大規模改修に向けた準備が進んでいる。	H30.11
◆公立の小規模保育事業を実施するため、平成30年12月補正予算で改修工事費を確保した。事業開始に向けた準備が進んでいる。	H30.12~
◆平成31年1月よりニーズ調査を実施し、平成31年3月末までに調査結果を集約。計画策定に向けた準備が進んでいる。	H31.1~
(2)子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、子育て・子育てを支える大人を増やしていきます。 (3)身近な場所に、子どもの自主性・社会性をはぐくめるよう、自然に世代間や異年齢交流などができる場を増やしていきます。	
◆平成30年度も継続して、子育て支援員研修を実施するとともに、新たに地域向け子育て・子育て支援講座を実施し、子育て支援に関する市民の理解が深まった。	H30.5~
◆子育て支援ネットワークのポータルサイトやメールマガジンなどにより、子育て家庭への情報提供を行ったことにより、子育て家庭への情報提供が図られた。	H30.4~
◆夏休み等に、児童センターを利用する子ども向けに、地域の人材を活用した講座を開催したことにより、地域の人材の活用ができるとともに、子どもと地域人材の交流機会を設けることができた。	H30.7~8



▲たかとりこども園



▲子育て支援ネットワークのポータルサイト

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】子育てを支える環境が整っているまちだと思う (%)					
	54.7	55.5				
みんなで目指す まちづくり指標	子どもを産み育てやすいと感じている人の割合 (%)					目標値
	66.0	65.9				70
	子どもに対して理解のある大人の割合 (%)					目標値
	66.2	70.1				94
	待機児童数 (人)					目標値
	17	19				0
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)						
<p>○市民意識調査 55.5% (策定値比+0.8ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そう思う」の割合は2.6%増加しており、「そう思わない」の割合は3.7%減少していることから、はっきりとそう感じている割合は着実に増えているといえる。 <p>○まちづくり指標「子どもを産み育てやすいと感じている人の割合」65.9% (策定値比▲0.1ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ横ばいとなっている。しかしながら、「どちらかといえばそう思う」の割合が2.9%減少して「そう思う」の割合が2.8%増加していることから、よりそう感じている人が増加していることが伺える。 <p>○まちづくり指標「子どもに対して理解のある大人の割合」70.1% (策定値比+3.9ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に男子で62.6%から68.4%と5.8%増加している。 <p>○まちづくり指標「待機児童数」19人 (策定値比+2人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横ばいとなっている。 <p>◆以上のことより分析される結果としては、様々な子育て支援策を展開していることから、それが環境が整っている、育てやすいと感じる人の「そう思う」の増加に寄与していると思われるが、待機児童が発生している状況や、保育園の入園に不安を抱える状況もあることから全体としては上昇を抑える結果になったと思われる。</p> <p>◆また、大人と子どもが交流する機会であったり、地域に関わりを持つ方も多種多様となっていることから、子どもが自分を理解してくれる大人がいると感じる場面も多いことが数値に現れたのではと思われる。</p>						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み (案) 見直し・改善 (案)	いつまでに
<p>(1) 待機児童の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童が発生している状況を改善することは、子どもを産み育てやすいと感じている人の割合の上昇に直接的な影響を与えるものであり、待機児童解消をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆待機児童が発生している1、2歳児向けの小規模保育園を公立幼稚園の空き教室を活用し開園する。 ◆高浜幼稚園の民営化に伴い、待機児童が発生している1、2歳児を受け入れる認定子ども園化を実施して1、2歳児の受け入れ枠を増やす。 	<p>R1.6</p> <p>R2.3</p>
<p>(2) ニーズに即した支援策の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育てを支える環境が整っているまちだと思う」という数値を上昇させる上ではニーズに即した子育て支援策を展開していかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ニーズに即した子育て支援策を実現するためにアンケート調査を踏まえて子ども・子育て支援計画を策定する。 	R2.3
<p>(3) 子どもに関わる大人の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対して理解のある大人の割合については上昇しているが、目標値を達成するには、更なる機会の創出、意識の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもに目を向ける大人を増やせるように子育て支援員研修や地域向けの講座を実施して、地域で活躍する人材を育成する。 ◆子育て支援ネットワークのポータルサイト等を活用し、子育て中の方だけでなく、子育て支援に関わる方にも役立つような情報提供を充実していく。 	<p>R2.3</p> <p>R2.3</p>

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- ポータルサイトやメールマガジンなどとても充実しており、母親や子どもが地域に出ていききっかけづくりになっている。
- 待機児童はかなり少ないと思うが、一人の先生でたくさんの子どもを見ている状況である。先生も全部見通せないで、子どもたちに副作用としてその弊害が出ないか心配である。
- 待機児童の解消にむけて大きな取組みをされたと評価できる。
待機児童の解消よりも、母親同士が交流できる場が増えることに重きを置いてもいいのでは。
- 保護者の働き方に寄り添った各園での受け入れ方（休日・長時間保育など）にも注視していきたい。
- 3歳未満児だと体調が不安定のため、病児・病後児保育についても充実していくと、安心して保護者が働く体制が整うのでは。
- 子育て、子育てを支える大人とは、地域や企業の関りとは何なのか、分かりにくい。地域に何をしたいのか、その活動主体は町内会、まち協、いったいだれか。企業には何を求めるのか。具体的な提案がないと思う。

MEMO

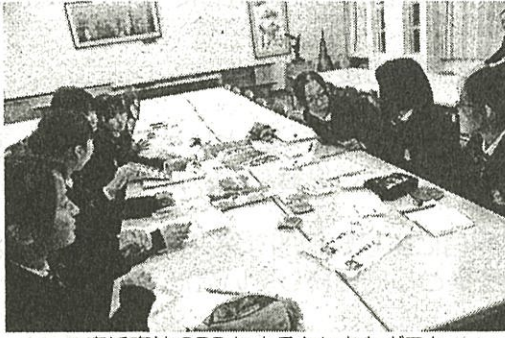
目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	産業は、まちに活力を生み出し、市民の働く場の確保や所得を得て、消費の場となるなど、安定した市民生活を支える基盤です。優良農地の保全をしつつ、地場産業の振興、企業誘致の促進、企業や事業者の新たな取り組みや意欲・挑戦を応援していきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 産業活動が活発に行われ、市内の雇用が安定しています。 ◇ 市内事業者の受注機会が増え、売上げが増加しています。 ◇ 市民が地域資源を掘り起こし、新たな視点も加え、まちの魅力を高めています。 ◇ まちの魅力に触れようと市内外から多くの人々が訪れてきています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 農地とのバランスを考慮しつつ新たな工業用地を創出し、企業誘致を進めるとともに、既存企業の投資意欲を高める支援策を推進します。	
◆豊田町地区は、開発主体と造成工事の進捗に応じた協議・調整を実施した。また、地元に対して進捗状況や造成工事の完了に伴う情報発信を実施した。	H30.4~
◆小池町地区は、早期の造成工事への着手を目指し、関係者や関係機関と協議・調整を実施した。また、開発に必要な都市計画法の手続きを支援した。	H30.4~
◆既存支援制度の効果を検証した。また、国が生産性向上特別措置法を施行したことから、市内企業の生産性の向上を図るため、本法に関する手続きを実施した。なお、制度の周知を図るため、商工会を通じて説明会を実施した。	H30.4-9
◆JA あいち中央産直振興課によるジャンボ落花生栽培講習会を開催し、新規の方も参加した。	H30.4
◆JA あいち中央高浜生産者部会の中に落花生栽培研究会を設け新規参入者への加入促進をしており、講習会を通じて栽培方法の意見交換をし品質の向上に努めている。	H30.4~
◆冷凍食品として塩茹でジャンボ落花生の試作品の開発に向けて市内食品事業者と打合せした。	H30.5-11
◆JA あいち中央に加工品に可能なジャンボ落花生の収穫量を確保していただくよう依頼し、市内食品事業者と打合せをした。	H30.5-11
◆11月25日にJA あいち中央高浜地区農業まつりで冷凍塩茹でジャンボ落花生の試作品を来場者に試食いただき、アンケート調査を実施した。	H30.11
(2) 災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をPRするため、「高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例」を推進します。	
◆組合が国の助成制度(経産大臣指定「伝統的工芸品」)を活用するための計画策定の支援をした。	H30.4~
◆屋根の日(8月8日)において、三州瓦公式応援サポーターがラジオ番組内で三州瓦の魅力(耐震関係を含む)を紹介した。	H30.8
◆三州瓦屋根工事等奨励補助金を交付した。(H30.4-H30.10実績:参考H29.4-H29.10 26件・太陽5件) 交付申請件数 31件 4,671千円、太陽光発電施設分 6件 1,200千円。	H30.4~
◆窯業展の開催(「建築・建材展2019」に出展)を支援した。	H31.3
(3) 高浜高校SBPを支援し、高浜市の産業を全国的にPRするなど、ビジネス手法を用いた若い世代の育成支援をします。	
◆高浜高校SBPによるオリジナルキャラクター焼き型の製作・販売活動、地元特産品を詰め合わせたセレクトギフト開発のための新商品開発活動を支援した。	H30.10~
◆高浜高校SBPによるオリジナルキャラクター焼き型を用いた三重県立相可高校との新用途開拓・販路開拓活動を支援した。	H30.7~
◆全国のSBP活動の支援組織である一般社団法人未来の大人応援プロジェクトによる、高浜高校SBPの活動の場の提供を支援した。	H30.4~
◆起業チャレンジャーの起業支援およびアフターフォローの実施をした。	H30.4~
(4) 高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜市のPRに対し人的支援、活動支援をします。	
◆衣浦定住自立圏主催のイベント(於大まつり・名鉄ハイキング・わんさか祭り)と西三河広域観光推進協議会の出展提案イベント(西三河フォークジャンボリー)へ出展支援をした。	H30.4~
◆ふるさと応援寄附金を通して地元特産品PRにつながる情報発信を支援した。	H30.4~
◆ふるさと応援寄附金(委託業務)が増加した。 H29/4-11 13,202千円 → H30/4-11 29,827千円	H30.4~



▲高浜高校 SBP によるセレクトギフト
開発のための新商品開発活動



▲ジャンボ落花生

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】産業が活性化して、まちが元気になっていると思う (%)					
	21.0	27.7				
みんなで目指す まちづくり指標	市内の法人数 (社)					目標値
	919	937			930	
	行政がかかわるイベントの来場者数 (人)					目標値
	86,000	89,000			100,000	
	製造品出荷額等 (億円)					目標値
	5,123.5	4,941.1			6,227.7	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)						
<p>○「市民意識調査」27.7% (策定値比+6.7 ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の「そう思う+どちらかといえばそう思う」割合の増加が大きく、策定値の18.4%が29.1%と10.7%増加している。 ・年代別では10歳代が42.9%から12.5%と大きく減少しているが、それ以外の年代はすべて増加している。 ・地区別ではすべて増加しており、特に高取小学校区の割合が現状値の倍となっている。 ・要因としては、各取り組みが徐々に浸透し、市民意識に現れたものと思う。 <p>○まちづくり指標「市内の法人数」937社 (策定値比+18社)</p> <p>○まちづくり指標「行政がかかわるイベントの来場者数」89,000人 (策定値比+3,000人)</p> <p>○まちづくり指標「製造品出荷額等」4,941.1億円 (策定値比▲182.4億円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状値より、製造品出荷額等が減少したものの企業数及びイベントの来場者数が増加している。 ・市内の法人数は鉄工・運輸・建設・その他関係の法人が増加している。 ・イベントの来場者数は、「鬼みちまつり」と「B-1グランプリ」をコラボ開催したことにより来場者が増加した。 						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み (案) 見直し・改善 (案)	いつまでに
<p>(1) 地場産業の三州瓦の販売方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震災害などによる風評被害の払しょくを図るための方策が必要である。 	◆愛知県陶器瓦工業組合が推奨しているガイドライン工法 (屋根工事の手法) の周知や屋根材としての三州瓦の優位性やデザインなどを広めていく。	R3.3
<p>(2) 高校生 SBP 活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの手法を用いて若い世代の育成を支援することで地場産業の全国的な宣伝につなげる。 	<p>◆高浜高校生のSBP活動によるオリジナルキャラクター焼き型の製作や販売活動を通じて地場産業の宣伝を行う。</p> <p>◆地元特産品を詰め合わせたセレクトギフトの開発及び新商品開発活動の支援を行う。</p>	R3.3 R3.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- 瓦などの伝統産業を守っていくために、若者向けの対策が必要である。
- 市が地場産業を応援するのはわかるが、どういうまちの姿にしたいかということを示していかなければ、本来の地場産業をどうやっていこうかという部分にたどり着かないように感じる。
- 地場産業振興に支援・提案を行っているが、魅力発信により短期的な経済効果があるとはいかないと思うが、継続的・長期的にPRして高浜の地場産業として継続していただきたい。
- 課題としている「三州瓦」や「高校生のSBP」は中期基本計画においても取り上げられている。市として地場産業をどうしたいのか、そのために市がやること、企業がやること、市民がやることを明確に示すべき。
- 工業用地と農地とのバランスをとる対策が具体的でないのでは。ワクワクする夢のある内容がほしい。
- 工業（製造業）にこだわらずに、将来性と高い利益を上げている企業を優先的に誘致しては。

MEMO

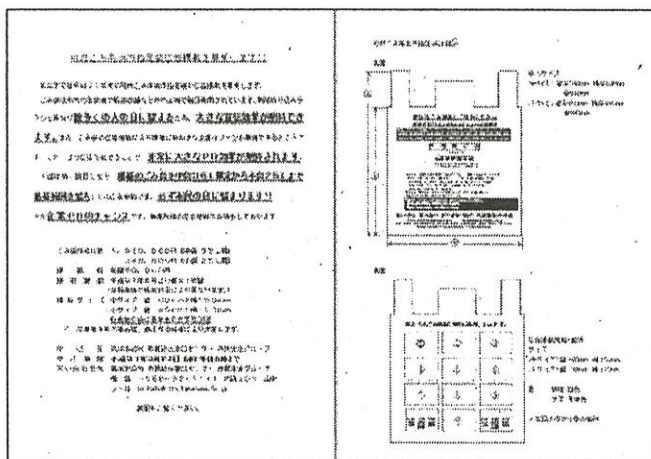
目標(7) みんなでまちをきれいにします

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	人類の共有財産である地球環境を守るため、一人ひとりが地球環境に対する意識を高め、地域・学校・事業者・関係機関と協力して環境に配慮した取組みを実践し、環境の負荷が少ない、快適できれいなまちを次世代に引き継ぎます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境から身近な生活環境まで、環境に配慮して行動する市民、事業者が増えています。 ごみをつくらない(リデュース)、再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の3R活動が推進され、ごみの減量化が図られています。 道路や公園などに、ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全活動に取り組みます。 (2) 循環型社会の構築に向け、資源ごみのリサイクルを進め、ごみの減量化に取り組みます。 (3) 「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進し、環境美化活動を進めます。	
◆平成30年度から新規事業として可燃ごみ指定袋に企業広告の掲載を実施した。最大10社の企業広告が掲載可能であったが、結果として、7社の掲載となった。(④40,000円×7社=280,000円)	H30.4~
◆生活環境問題研究会・町内会などと調整を進め、令和元年7月から可燃ごみ用指定袋の無料配布の廃止による有料化を開始した。	H30.4~
◆町内会・行政連絡会にて、可燃ごみ指定袋の無料配布の廃止による有料化及び町内会支援策について説明・調整等を行った上で町内会支援策を決定した。	H30.4~
◆可燃ごみ指定袋の無料配布の廃止による有料化に対して、ごみ減量地区説明会を開催した。	H31.1~
◆外国語に対応した、スマートフォン向け、分別アプリの構築及び運用を開始した。	H31.2~



▲可燃ごみ高浜市指定袋 広告掲載募集チラシ



▲ごみ分別促進アプリ 「さんあ〜る」

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)
市民意識調査	【設問】みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う(%)				
	66.2	65.6			
みんなで目指す まちづくり指標	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合(%)				目標値
	77.9	75.2			85
	1人1日あたりの家庭ごみ排出量(g)				目標値
	540	564			490
	市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことがある人の割合(%)				目標値
	60.4	59.6			71

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)

○市民意識調査 65.6% (策定値比▲0.6ポイント)

<みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う>について

- ・策定値と比較すると、「そう思う」は7.1%から12.6%に上昇しているが、「どちらかといえばそう思う」が59.1%から53.0%に減少し、全体として0.6ポイント減少している。
- ・そう思う+どちらかといえばそう思うについて、年代別では10代が71.4%から43.8%に大幅に減少しており、地区としては港小学校区が70.3%から61.9%と大きく減少をしている。
- ・要因としては通学路での可燃ごみの散乱などが考えられる。

○まちづくり指標「日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合」

- ・策定値と比較すると、「はい」は77.9%から75.2%と2.7ポイント減少している。
- ・男女ともに減少しているが、女性の「はい」の比率が79.4%から74.9%と4.5ポイント減少している。
- ・年代では60歳以上は「はい」の割合は増加しているが、20歳代から50歳代の割合は減少している。
- ・地区では高取小学校区は「はい」の割合は増加しているものの、それ以外は減少している。
- ・昨年度の夏は猛暑であり、熱中症対策としてエアコンの使用を推奨されていたことなどが要因の一つであると考えられる。

○まちづくり指標「1人1日あたりの家庭ごみ排出量」

- ・策定値と比較すると、540gから564gと24g増加している。
- ・これは高浜市の人口に占める外国人の割合が増加していることから分別収集のルールが行き届いていないことが要因の一つと思われる。

○まちづくり指標「市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことがある人の割合」

- ・策定値と比較すると「ある」は60.4%から59.6%と0.8ポイント減少している。
- ・男女別では男性は64.4%から56.6%に減少しており、女性は57.5%から60.5%に増加している。
- ・年齢別では20歳代と30歳代の割合は増加しているが、50歳代と60歳代の割合が減少している。
- ・地区別では吉浜小学校区は増加しているが、それ以外は減少している。
- ・アンケートの設問14「あなたは、地域活動に参加したことがありますか？」の「はい」の割合も策定値の62.9%から58.6%に減少していることから、地域活動の関わりの減少が要因と思われる。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み(案) 見直し・改善(案)	いつまでに
(1) <u>ごみの減量</u> ・1人1日あたりの家庭ごみ排出量が、目標値の490gを達成していない。	◆可燃ごみの減量の方法の周知徹底と、可燃ごみに含まれる「資源」を可燃ごみから切り分けるなどの「ごみ減量化」に対する意識向上策や新たなごみ減量化の施策を環境政策に関する検討組織である「生活環境問題研究会」において検討する。	R3.3
(2) <u>「環境美化活動」に対する意識の向上</u> ・市民意識調査において、「日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合」が減少している。	◆「生活環境問題研究会」において、市民、事業者の「環境美化活動」に対する意識向上策を検討する。	R3.3
(3) <u>分別収集拠点の運営見直し</u> ・町内会と協力し、分別収集拠点の運営方法、拠点数、収集時間などを検討する必要がある。	◆町内会による分別収集拠点の運営方法や拠点数、収集時間などの検討に加え、町内会の活動に対する支援策を検討する。	R3.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- ゴミ袋の無料配布廃止に伴い、市指定の袋以外で出さないような対策が必要である。
- ゴミ袋の有料化により、ゴミ減量となる方法を周知徹底いただきたい。
- 外国人向けのごみの分別看板の設置を充実させてほしい。
- 商店でのごみ袋購入により市からゴミ捨てマナーやゴミ減量の啓発が不十分にならないようイベントなどでも啓発いただきたい。
- ゴミ問題は、すべてが町内会に依存している。一般市民や外国人の問題に、市がどう取り組むかを示す必要がある。
町内会は万能ではないし、規模も現状維持が精一杯。根本的な見直しが必要な時期だと思う。

MEMO

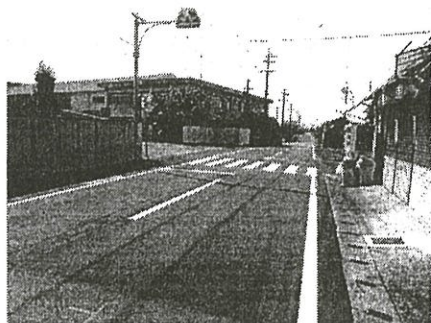
目標(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります

I. 目指す姿【PLAN】

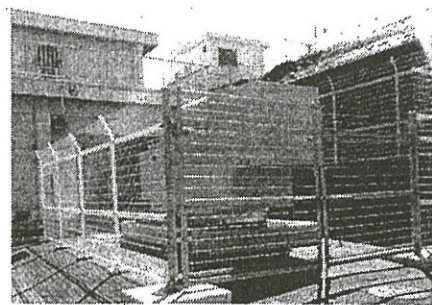
目標達成に向けての考え方	住みやすい快適な都市空間をつくるため、道路やライフライン等について、予防保全型の計画的な維持管理や長寿命化を図るとともに、公園・緑地といった地域資源を地域とともに守り、まちの魅力を高めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 都市空間の調和を保ち、安心して安全な暮らしを支える道路などの整備・保全が計画的に行われています。 ◇ 快適な生活の維持に必要なライフラインが整備されるとともに、いつでもすべての市民に安定して水が供給できています。 ◇ 公園・緑地などが地域とともに守り育てられ、まちの憩いの場として親しまれています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 道路や橋りょう等の計画的な維持管理のため、調査・点検を進め、改良や修繕を行います。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆老朽化した橋りょうの保全事業において、架け替えにより機能回復が必要となったことから、関連する県河川改修事業と工程調整を実施した。 ◆交付金事業による舗装修繕工事(市道向山新川線)を0.1 km実施した。 ◆道路・橋りょう等の機能保全に必要な修繕工法を検討した。 ◆市内全体の幹線道路の舗装状態を把握するため、路面性状調査(舗装の健全度)を実施した。 	H30.4~ H31.1 H30.4~ H31.1
(2) 災害時でも水が安定的に供給できるよう、災害時避難所へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えするなど、耐震化を進めます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆配水管を耐震管に入れ替えた。(市道中部30号線外) ◆配水場の老朽設備を更新した。(高浜配水場) ◆重要給水施設(指定避難所)への配水管を耐震管に入れ替えた。(重要給水施設:吉浜小学校) 	H31.3 H31.3 H31.2
(3) 公園施設長寿命化計画に則って計画的に公園施設の修繕を進めるとともに、地域の関係団体と協働で「緑のあるまちづくり」を進めます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆公園施設の長寿命化、老朽化が著しい施設を今後の維持管理費等を比較し改修等を進めている。 ◆地域の利用状況等を把握するため公園利用調査を実施している。 ◆愛知県との調整を行い、愛道路パートナーシップへの支援を行った。 ◆NPO団体等の行事に参加し、地域の団体の方と協働で、公園、緑地、街路樹や水辺の保全活動を行った。また、花壇の里親の活動をより円滑にするためゴミ袋を配布した。 	H30.4~ H30.11 H30.4~ H30.4~



▲市道向山新川線



▲高浜配水場

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思ふ(%)					
	44.8	50.2				
みんなで目指す まちづくり指標	道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）(%)					目標値
	18.4	23.1				38.6
	配水管の耐震化率(%)					目標値
	18.5	20.5				25
	公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合(%)					目標値
	20.2	24.6				23
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）						
<p>○まちづくり指標「道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）」23.1%（策定値比+4.7%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 路面修繕計画に基づき、損傷度・重要度の高い路線を計画的に舗装修繕が実施できた。 道路利用者の安全・安心を守るため、路面修繕計画に基づき、継続的な修繕を実施する必要がある。 <p>○まちづくり指標「公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合」24.6%（策定値比+4.4%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代別利用で見ると子育て世代の30歳代が大幅に増加しており親子での公園利用が増えてきていると考えられる。 公園・緑地などが、まちの憩いの場として親しまれ安全・安心に利用できるよう引き続き維持管理していく必要がある。 <p>○まちづくり指標「配水管の耐震化率」20.5%（策定値比+2.0%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所などへ供給している配水管、新規埋設管、下水道整備区域内の配水管について、耐震化が実施できた。 利用者に対し、常時はもちろんのこと災害時にも安全で安心な水道水を安定して提供できるよう、引き続き管路の耐震化を進める必要がある。 						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>（１）改修対象施設の優先順位づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園施設の長寿命化、老朽化が著しい施設を今後の維持管理費等を比較し改修等を進める必要がある。 財政状況を踏まえ、年度で改修できる公園の数に限りがあるため、優先順位をつけて改修する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆公園施設の長寿命化、老朽化が著しい施設について、今後の維持管理費等を比較し改修等を進める。 ◆遊具の改修を行う際には、公園の利用状況等を調査し、地域の意見等を踏まえ改修を進める。 	適宜
<p>（２）計画的な設備の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全経営を考慮し、計画的に整備を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆配水管を耐震管に入れ替える。（新規埋設管、下水道整備区域等） ◆老朽管を計画的に耐震管へ入れ替える。 ◆配水場の老朽設備を更新する。（配水ポンプ、ポンプ制御盤、受変電設備等） 	適宜
<p>（３）今後増加する施設の老朽化</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度成長期以降、区画整理事業などにより急速に道路整備をしており、その施設の老朽化により、損傷箇所が急増することが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆舗装修繕において、損傷及び劣化状況を調査した結果を踏まえ、路線の重要度などを考慮した修繕計画を策定し、計画的な修繕を図る。 	適宜

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- 市民は、道路・河川・公園は当然あるものと見ており、維持管理も当然行政がやるものと思っている。市民個々がインフラとどう向き合うかを提案、周知することが必要。
- 地域の人たちで協力して維持管理するというところで設置されたミニパークと、行政が管理する公園の区別を明示すべきでは。
- 公園の遊具の老朽化については、事故防止のためにも、速やかに対応いただきたい。避難場所としても機能することも考慮して、被災時に機能するように、施設や水道設備には 早急の対応をお願いしたい。
- 使いたい公園にするために、調査等を行いながら遊具の充実をさせてほしい。
- 配水管の耐震化は、ライフラインとして必要不可欠であるので、充実させてほしい。
- 水道工事については、30年以内に地震が来る可能性が高いなかで、この進捗でよいのか検討を重ねていただきたい。

MEMO

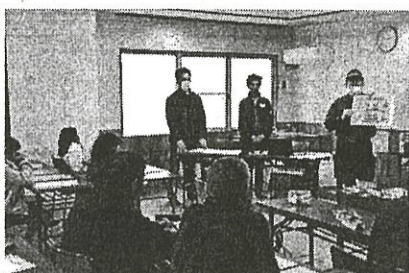
目標(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます

I. 目指す姿【PLAN】

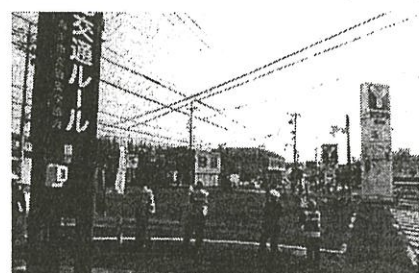
目標達成に向けての考え方	近い将来に発生が予測される大震災に加え、集中豪雨・台風・火災などの災害、身近に起きる犯罪・交通事故から生命を守り、被害を最小限に食い止めるため、市民・地域・事業者・関係機関・行政がそれぞれの役割を果たし連携を図る中で、安全・安心に暮らせる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市民一人ひとりが、災害・犯罪・交通事故に対する予防や備えに取り組んでいます。 ◇ 「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携が強化され、防災・減災対策、防犯・交通安全対策など、安全・安心を守る活動が地域の中で積極的に行われています。 ◇ 誰もが安全で安心だと感じながら暮らしています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 自然災害に対し、市民・地域・事業者・関係機関と「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携強化を図り、実践的な防災・減災活動に取り組みます。	
◆避難行動チェックシートの活用、タイムラインや地域性など、地域の実情に即した訓練の実施に向け、まちづくり協議会のグループ会議などで調整を進めた。	H30.4~
◆地域防災リーダー養成講座「基礎編・避難所編・フォローアップ編(家具固定)」を開催し、町内会・まちづくり協議会・日赤奉仕団など、地域防災の要となる市民に多数参加いただいた。また、講座の内容が市総合防災訓練等に結びつくように、訓練前に全ての講座を実施した。	H30.6~8
◆商工会建設部会で、災害時における連携体制について意見交換を重ねるとともに、部会員を対象に資機材や人材の支援等に関するアンケートを実施した。	H30.9~
◆外国人が多く居住する県営葎池住宅周辺で外国人向け防災訓練を実施した。	H31.3
(2) 「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に基づき、地域・警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議を軸に、犯罪抑止活動を推進します。	
◆安全なまちづくり運動期間中の駅やスーパー等での啓発活動、年金支給日に銀行での特殊詐欺防止活動、毎月10日に防犯診断自宅訪問などを実施した。	H30.4~
◆地域及び警備会社による青色防犯パトロール活動を実施した。	H30.4~
◆愛知県警が配信するメールマガジン「パトネットあいち」の広報やホームページへの掲載、まちづくり協議会の会議や防災訓練説明会など、住民が参加する様々な機会を活用して概要説明を行い登録促進に努めた。	H30.4~
◆企業や団体からの寄附により、地域住民や警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議等で決定した6箇所(主要交差点等)に、防犯カメラを設置した。	H30.5~
(3) 地域・警察・事業者・関係機関と連携し、特に自転車の運転マナーの向上、高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取組みなど、交通安全対策を進めます。	
◆ゼロの日の街頭活動、交通安全運動期間中の一斉大監視活動、スーパー等での啓発活動を実施した。	H30.4~
◆いきいきクラブ会員等を対象とした交通安全講話、高浜市交通安全協会が主体となり、自主返納した高齢者に、商店振興会加盟店で使用でき、いきいき号の回数券も購入できるスマイルカード2千円分を贈呈した。	H30.4~
◆「パトネットあいち」の広報やホームページへの掲載、まちづくり協議会の会議や防災訓練説明会など、住民が参加する様々な機会を活用して概要説明を行い登録促進に努めた。	H30.4~
◆小学生を対象に、自転車の安全な乗り方教室を実施した。	H30.5~



▲外国人向け防災訓練



▲一斉大監視活動

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	
市民意識調査	【設問】安全・安心が実感できる防災・防犯対策が進められているまちだと思う(%)					
	57.7	55.3				
みんなで目指すまちづくり指標	家具を固定している人の割合(%)					目標値
	59.1	61.0				70
	防災訓練に参加したことのある人の割合(%)					目標値
	61.9	61.7				72
	人口1,000人あたりの犯罪発生件数(件)					目標値
	6.9	6.5				6.0
人口1,000人あたりの交通事故発生件数(件)					目標値	
3.9	3.7				3.0	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)						
<p>○市民意識調査 55.3% (策定値比▲2.4ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に10歳代が15.1ポイント減少しており、学校との連携も図りながら様々な手法を通して、防災や防犯に関する情報や対策を市民一人ひとりに提供していく必要があると考える。また、無回答が2ポイント増加したことも数値が下がった要因の一つと分析している。 <p>○まちづくり指標「家具を固定している人の割合」61.0% (策定値比+1.9ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国各地で発生している地震の現状などを踏まえた市民の減災意識の向上、専門家を招き実施した地域防災リーダー養成講座(家具固定)の成果等によるものと分析している。 <p>○まちづくり指標「防災訓練に参加したことのある人の割合」61.7% (策定値比▲0.2ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 長年、この地域では大規模な地震や風水害等が発生していないことから、市民等の防災意識の低下なども要因の一つと分析している。また、今回の調査では、10歳代の低下が著しく、前回調査より21.4ポイントの減少となった。学校とも連携した対策を進める中で、若者への防災訓練への参加に努めていく必要があると考える。 <p>○まちづくり指標「人口1,000人あたりの犯罪発生件数」6.5件 (策定値比▲0.4件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 防犯の4原則の一つである「地域の目」として、青色防犯パトロールを始めとする地域防犯力の向上が、犯罪発生を抑止に大きく寄与していると考えられる。 <p>○まちづくり指標「人口1,000人あたりの交通事故発生件数」3.7件 (策定値比▲0.2件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 警察や関係団体等と連携した地道な交通安全活動の成果であると分析している。 						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み(案) 見直し・改善(案)	いつまでに
<p>(1)「自助」「共助」「公助」に基づく地域や事業者との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害の規模が大きいほど、行政が担う「公助」には限界があり、災害リスクを軽減するためにも、平常時から「自助」「共助」「公助」に基づく役割分担等を図る中で、防災・減災対策を推進することが重要となる。 	◆平常時や災害時に、地域の中で防災・減災対策の中心的な役割を担う地域防災リーダーを養成するとともに、地域の実情に即した訓練の実施に向け、まちづくり協議会のグループ会議などで調整を進める。	R1.9
	◆高浜市商工会(建設部会等)と連携し、緊急連絡網の整備、提供資機材や人員の調整など、連携強化に向けた意見交換等を進める。	R2.3
	◆平常時における「自助」の取組みや自宅から避難場所までの避難行動などをチェック方式で示した「避難行動チェックシート」及びホームページで確認できる防災・減災対策をまとめた一覧表を作成し、全世帯に配布する。	R1.8
	◆避難所運営マニュアルの改訂を踏まえ、小学校区ごとにマニュアルの勉強会等を実施する。	R2.3
	◆外国人割合が高い現状を踏まえ、外国人向けの防災訓練を実施する。	R2.3
<p>(2)犯罪発生件数の減少対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 増加傾向にある高齢者を狙った特殊詐欺や住宅侵入盗などへの対策に取り組んでいく必要がある。 市内の犯罪発生状況など、市民への情報提供を図る中で、「自助」としての防犯意識を高めていく必要がある。 	◆町内会、まちづくり協議会、警察等で構成される「高浜市防犯ネットワーク会議」を軸に、関係者と連携して各種の防犯対策に取り組む。	
	・駅やスーパー等での啓発活動、年金支給日に銀行での特殊詐欺防止活動等を実施する。	R2.3
	・愛知県警が配信するメールマガジン「パトネットあいち」への登録促進を図る。	R2.3
	・主要交差点等に防犯カメラを設置する。	R2.3

<p>(3) 交通事故発生件数の減少対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故が増加している高齢ドライバーや自転車運転者等に対する交通安全対策を推進する必要がある。 市内の交通事故発生状況など、市民への情報提供を図る中で、「自助」としての交通安全意識を高めていく必要がある。 	<p>◆警察や高浜市交通安全協会など関係機関と連携して各種の交通安全対策に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゼロの日街頭活動、一斉大監視活動、スーパー等での啓発活動等を実施する。 自転車の安全な乗り方教室、高齢ドライバーへの交通安全講話等を実施する。 愛知県警が配信するメールマガジン「パトネットあいち」への登録促進を図る。 	<p>R2.3 R2.3 R2.3</p>
---	---	-------------------------------

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

<ul style="list-style-type: none"> 防災・防犯について、10歳代の数字が減っているが、子どもは大人の姿を見て育つので、大人への働きかけをどうするかが大切。 防災に対する危機管理があまりできていないように思われる。スフィア基準（被災者の尊厳を守る国際基準）を意識して、国と一体となって災害時対応を考えていただきたい。 このあたりは大規模災害が起きていないので、災害対策が更新されずどんどん古くなっているのでは。継続するのはいいが、そこに変化をつけていかなければと思う。大災害がいつかくるかもではなく、来るに違いないという危機感をもってリアルにやるべき。 災害の規模が大きいほど「公助」には限界があることを、市民は十分に理解しているのか疑問。形骸化した避難訓練を各地域で行っていないかチェックし、問題点の対策についても、地域と行政がともに検討して、「自助」「共助」の力を市民全体でつけていけるとよいと思う。 避難所は体育館以外に、市内の旅館やホテル等の過ごしやすい施設も検討すべきでは。 災害を自分のことと思っていない。さまざまな活動が記載されているが、毎年同じことをやっている。市民意識調査の分析をしっかりと行い、達成状況をアップさせる新たな取組みを提示すべき。 防災講座を受けて終わりになっていて、活かされることがないのが現状。大人も子どもも、体験・経験を積むことが大切。総合防災訓練の場が、体験・経験を積む場になるとよいと思う。 外国人の避難訓練も毎年各地区で取組み、地域の方との交流機会として続けていけるとよいと思う。
--

MEMO

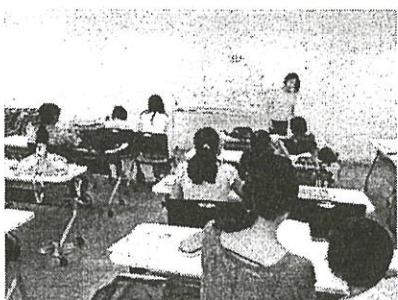
目標(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

I. 目指す姿【PLAN】

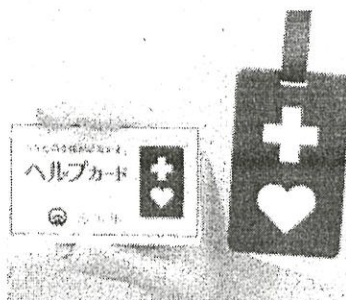
目標達成に向けての考え方	市民が抱える課題や福祉ニーズは、年々複雑化・多様化しています。家族、近所、町内会、まちづくり協議会などの地域のネットワークや事業者、関係機関などが協力して、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して生活できる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 困りごとを抱え、支援を必要とする人に対して、包括的な相談支援が行われています。 ◇ 支援を必要とする人に対して、ニーズに応じた福祉サービスが提供され、誰もがその人らしくいきいきと暮らしています。 ◇ 福祉サービスやふだんの生活を支える人材が確保され、地域の中で互いが協力し、支え合いの担い手として活躍しています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。	
◆いきいき広場でハローワークの巡回相談を開設するとともに、刈谷ハローワークの就労自立促進事業と連携した就労支援を行った。	H30.4
◆中高校生を対象とした「ステップ」、小学校高学年を対象とした「ステップジュニア」として継続的な学習支援を実施した。	H30.4
◆こども貧困対策会議を開催し、生活困窮世帯等の子どもの支援の在り方等を検討した。	H30.6
(2) その人に合った暮らしを実現するため、地域の実情に応じて、福祉サービスや地域の支え合いの充実を図ります。	
◆各町内会、まち協に避難行動要支援者の更新名簿を配布するとともに、名簿の活用についての啓発を行った。	H30.5
◆市内居宅介護支援事業所に個別計画作成を依頼し、順次個別計画の作成を行った。	H30.6
◆福祉部の保健師に個別計画作成を依頼し、順次個別計画の作成を行った。	H30.6
◆継続的に各福祉避難所と無線訓練を実施した。	—
◆ポッチャ普及委員会を4回開催し、高浜高校にて福祉実践教室を開催した。各児童センターにおいてポッチャ教室を行った。ポッチャ大会を開催した。	H30.4 ~H31.3
◆障害者地域自立支援協議会防災部会を11回開催し、ヘルプカードの作成、避難訓練実施及び避難所模擬体験並びに防災勉強会を開催した。	H30.4 ~H31.3
◆障害者施策審議会及び障害者地域自立支援協議会において課題を共有するとともに、サービス提供事業所と意見交換を行った。	H30.4 ~H31.3
◆障害者地域自立支援協議会地域生活支援拠点部会を4回開催し、拠点の候補施設を見学した上で、拠点整備に必要な機能を検討し、拠点整備の方向性を確認した。	H30.7 ~H31.2
(3) 福祉サービスやふだんの生活を支えるための多様な人材を養成します。	
◆地域介護力向上プロジェクトを立ち上げ、「介護人材の確保・育成」「多職種連携」「介護予防プログラム開発」3つのチームでそれぞれの課題を検討した。介護人材確保セミナーを開催した。	H30.5 ~H31.1
◆「介護人材の確保・育成チーム」において、「高浜市介護サービスガイド」パンフレットを作成した。	H31.3
◆「介護人材の確保・育成チーム」において、市内事業所に研修アンケートを実施し、研修プログラムを作成した。	H31.3



▲ステップジュニア



▲ヘルプカード



▲高浜市介護サービスガイド

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】一人ひとりが認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う (%)					
	63.0	58.5				
みんなで目指す まちづくり指標	いきいき広場（総合相談窓口）を知っている人の割合 (%)					目標値
	72.3	74.8				80
まちづくり指標	高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合 (%)					目標値
	29.7	28.3				36
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）						
<p>○市民意識調査 58.5%（策定値比▲4.5ポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も単身高齢者、高齢者のみ世帯の増加、核家族化が進むことが予測され、誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らせる環境づくりと指標の上昇がより求められてくる。 <p>○まちづくり指標「いきいき広場（総合相談窓口）を知っている人の割合」74.8%（策定値比+2.5ポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで福祉の総合拠点としての取組みが、多くの市民に認識されつつあること、また、こども未来部と教育委員会がいきいき広場に移転し、妊娠期から高齢者までの全世代型の相談拠点として機能してきたことも増加の要因と考えている。引き続き、生涯にわたる切れ目のない支援拠点として、相談支援の充実を図っていく必要がある。 <p>○まちづくり指標「高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合」28.3%（策定値比▲1.4ポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアセンターの登録者数をみても、前年度から増加したものの微増となっている。複雑・多様化する福祉ニーズに対応するためには、公的な福祉サービスに加え、共助である地域の支えあいの充実が図られる取組みが必要となる。また、それを支える担い手の確保も指標の増加につながるものと考えている。 						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
（１）相談支援の充実 ・いきいき広場の総合相談窓口をさらに充実させ、福祉に関する困りごとを気軽に相談できる場としてより多くの方に認識いただく。	◆生活困窮に対する相談者に対し、就労支援や家計支援等、一体的な支援を実施することにより、早期の自立に向けた支援を実施する。 ◆妊娠・出産・子育てから高齢者まで、全世代にわたる相談窓口として、部局間の連携強化及び情報共有を進めていく。	R1.9
		R2.3
（２）地域の支えあいの充実 ・地域における「互助」の担い手を増やすとともに、支えあいの意識を高めることで、すべての人が暮らしやすいまちづくりを目指していく。	◆ボランティアについて、初心者講座の開催や登録者の交流会を開催し、多くの市民が気軽に参加できるよう取り組む。 ◆認知症サポーター養成研修を実施し、受講者の拡充を図りつつ、認知症の人やその家族を見守る目を増やすとともに、サポーター自身ができる範囲の活動を促していく。	R1.12
		R2.3
（３）介護人材など地域福祉を支える人材の増加 ・福祉に携わる方を増やし、かつ育てていくことで、地域福祉の将来を担う人材を育成していく。	◆介護の魅力をPRし、潜在的な介護人材を発掘するとともに、過去に介護職に就いていた人の再就職を支援することで、介護の担い手を確保する。 ◆すでに介護で働いている方に対する研修を充実させ、レベルアップを図るとともに離職を防止する。	R2.3
		R2.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- ボランティアや介護の現場では人手不足が表面化している。一人に複数のボランティア活動の依頼がくると抱えきれなくなってしまう。
- ボランティア活動に参加している人の高齢化が身近な問題。若い世代に関わってもらうなどに力を入れてほしい。
- 現在は介護などを必要としていない人たちをいかに巻き込むかが重要。
- ボランティアとボランティアを必要としている人とのマッチングをするボランティアセンターがとても大切。多様なニーズに柔軟な対応をしていただきたい。
退職後の男性に社会で培われた技能や経験を生かして、たくさんの方に活躍いただけるように、講座など開催していただきたい。
- 資格がなくてもできる買い物サポーターや、ごみ出しのお手伝いなど、高齢者などが気楽にお手伝いを頼める人材も、地域で必要になると思う。
- 全世代に切れ間のない相談支援をお願いしたい。福祉や介護の支援に引っかけられない、家庭内の引きこもりや貧困などの困りごとについても、柔軟に相談できる間口の広いものであるとよいと思う。
- どうしたいかが明らかになっていない。地域福祉において、市は何をやるから、地域や市民にはこれをやってほしい、という主張ができるとうわかりやすい。

MEMO

目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	健やかで心豊かに生活するためには、健康であることが大切です。一人ひとりが健康づくり活動に取り組むことができるよう、地域全体で健康寿命を延ばしていくための環境づくりを進めます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 若いうちから、一人ひとりが自身の健康状態を把握し、健康づくり活動へ積極的に参加しています。 ◇ 誰もが住み慣れた地域で、生きがいや役割を持ち、健康でいきいきと暮らしています。 ◇ 医療、介護、予防、生活支援の連携体制（地域包括ケア）が構築されています。

II. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 生涯をとおして健康を意識し、生活の質を高めるための健康づくり活動を応援します。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市内在住 18 歳以上の方を対象にたかほま健康チャレンジ事業を実施した。 ◆ 健康づくり推進委員が 3 グループに分かれ、「減塩」をテーマにそれぞれの地域で活動を実施した。12 月には、第 4 回健康自生地フェスタ×チョイと健康フェスティバルで「減塩」をテーマにしたブースを出展し、委員が学んだことの成果を、多くの方に広げた。 ◆ 3 小学校での生活習慣病予防教室を実施した。 ◆ たかほま健康チャレンジ事業の実施内容や方法などについて、検討を行った。 ◆ たかほま健康チャレンジ事業について、広報やホームページへの掲載に加え、地域で健康づくり活動を実施する健康づくり推進委員や保健事業の参加者などにも周知し、より多くの人へ伝わるよう PR した。 	H30.4~ H30.4~ H30.6-7 H30.4~ H30.4~
(2) 高齢者の居場所である「健康自生地」を応援するとともに、担い手としての活躍の場を創出します。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 元気な高齢者に健康自生地の担い手側として活躍してもらうため、イベント等へのお手伝い役としての参加を促した。 ◆ でいでーる vol.17 及びでいでーる vol.18 で、健康自生地を巡るモデルコースの紹介、手先を使った健康自生地の特集、あったか健康自生地の特集を掲載した。 ◆ 「ホコタッチレポート」として、平成 29 年度に実施した介入研究「コグニライフ教室」の研究結果の一部やホコタッチの利用状況を、でいでーるに掲載した。 ◆ 「脳とからだの健康チェック」で、予防活動が必要とされた高齢者を対象に、外出促進事業「コグニタウン事業」を実施した。 	H30.12 H30.7 H30.12 H30.7 H30.12 H30.5~
(3) 疾病を早期に発見し、適切な治療が受けられる「かかりつけ医」を持つよう働きかけるとともに、地域医療の充実と医療と介護の連携を推進します。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療と介護の連携推進事業の中で、専門性の高い医療分野の業務を 4 月より刈谷医師会及び刈谷豊田総合病院へ 3 市共同委託した。(3 市：刈谷・知立・高浜) ◆ 職種ごとに説明会や訪問説明を実施し、「えん joy ネット高浜」の利用登録促進を図った。 ◆ 高浜市在宅医療・介護連携推進協議会を開催し、広域連携についての協議や支援勉強会を行った。 ◆ 刈谷医師会管内の刈谷市・知立市をはじめ、西三河 9 市町と「在宅医療・介護連携システムに関する協定」を締結し、えん joy ネットを活用した広域連携での在宅支援体制を強化した。 ◆ 休日及び夜間における診療を確保するため、医科及び歯科医師会との連携を図り、在宅当番医制を実施するとともに、6 市による 2 次救急医療体制を継続した。 ◆ 地域医療ネットワークによる病診連携が図られていることを周知するとともに、かかりつけ医を持つように広報、ホームページ等で呼びかけた。 ◆ 子育て世代への周知を図るため、乳幼児健診でかかりつけ医の確認と推奨を行った。 ◆ 医療法人豊田会との協議に基づき、地域医療を充実させるため、新病院の建設工事が始まった。(2019 年 7 月開院) 	H30.4~ H30.4~ H30.5~ H30.10 H30.4~ H30.4~ H30.4~ H30.4~

▼健康自生地フェスタ



▼でいでーる



▼えん joy ネット高浜



Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思ふ (%)					
	65.8	61.7				
みんなで目指す まちづくり指標	日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合 (%)					目標値
	63.4	66.3				71
	かかりつけ医を持っている人の割合 (%)					目標値
	78.6	74.7				84
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)						
<p>○市民意識調査 61.7% (策定値比▲4.1 ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 歳代をはじめとした若い世代の数值が低くなっている。今後は、若い世代の健康意識を高め、自身の健康づくりに取り組んでもらえるような仕組みを構築する必要がある。 <p>○まちづくり指標「日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合」66.3% (策定値比+2.9 ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とした「健康自生地」や「ホコタッチ」の取組みを継続してきたことにより、自宅に閉じこもらず、地域の活動やウォーキングを楽しむ人が増えてきたと考えられる。 <p>○まちづくり指標「かかりつけ医を持っている人の割合」74.7% (策定値比▲3.9 ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き盛りである 20 歳代から 50 歳代の数值が低くなっている。この世代は、他の世代と比較して、健康上の課題が少ないことから、受診の機会も少ない。地域医療ネットワークが構築されていることを改めて周知し、かかりつけ医を持つよう働きかける必要がある。 						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み (案) 見直し・改善 (案)	いつまでに
(1) 若い世代の健康づくりの促進 ・高齢になってからの疾病や介護のリスクを軽減するため、若い頃から健康に対する意識を高め、自身の健康づくりに取り組むことが必要である。	◆18 歳以上の市民を対象とした「たかはま健康チャレンジ」に参加し、自らの健康づくりに励むよう積極的な情報発信を行う。	R2.3
	◆小学校における生活習慣病予防教室を継続するとともに、運動不足に陥りがちな若い世代に対して、マシンスタジオの利用など、スポーツに親しむよう働きかける。	R2.3
(2) 外出したくなる仕組みの構築 ・「健康自生地」の数を増やすだけでなく、質の向上を図る必要がある。 ・外出やウォーキングを楽しむ人をさらに増やすための仕組みづくりを行う必要がある。	◆健康自生地の担い手を対象に、認知症サポーター養成講座を実施するとともに、それぞれの居場所で実施可能な介護予防や認知症予防の活動を検討する。	R2.3
	◆「ホコタッチ」を活用した健康づくりを推進するため、配布対象者の拡大を検討する。	R2.3
(3) 地域医療ネットワークの周知及び医療と介護の連携の推進 ・若い世代にかかりつけ医を持ってもらうため、地域医療ネットワークが構築されていることを周知する必要がある。 ・医療・介護関係者の連携意識の向上を図り、職種間での繋がりを深める必要がある。	◆紹介状なしで大病院を受診した場合には選定療養費が必要になるなど、かかりつけ医を持つことによるメリットの部分を中心に周知を図る。	R2.3
	◆医療機関や介護事業所の連携を通じて在宅医療の普及・啓発を行う。	R2.3
	◆「えんjoyネット高浜」による連携だけでなく、関係者同士の顔の見える関係、信頼関係を構築する。	R2.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- いきいきクラブには元気な高齢者が多いので、その力をうまく連携活動に繋げられればと思う。
- 健康自生地に関わる人は女性が多い。男性も引きつれて、まち全体が活性化されればと思う。
- 非常事態の時に、1人ひとりの元気と健康づくりが成されるのかが大切であると思う。非常事態の時に辞令がすぐに出て、マンパワーが回るシステム作りが必要では。
- 「かかりつけ医」といっても、医者にかかっていない人には無縁なもののような気がする。課題で出てくる項目が、何を根拠にしているのかがわかると、見直し・改善案も理解しやすくなると思う。

MEMO

第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果 【目標全般】

- 景気が悪くなると、市民意識調査の数値も下がる傾向にある。必ずしも発信側の努力で上がるとは言えず、世の中の世相が悪くなれば下がる。
- 男性が地域になかなか出てこなかったり、高齢化のために地域を支える住民自治の担い手が消えていっていることに対しては、本当に危機感をもって取り組んでいかなければならない。
- 外国人や軽度の認知症を患っている人、社会復帰したいと思っている人をもっと応援していく仕組みに根本的に変えていく必要があると思われる。
- 主な取り組みがいくつか書いてあるが、この取り組みをやる前提として、どのようなまちにしたいかということ意識しないとイケない。目標があって事業がある。
- 【DO】【CHECK】【ACTION】が系統立てて述べてあると理解しやすい。
- 評価シートは、目標値に目が行くが、そうではなく、取り組みと今後のアクションの繋がりをうまく表現した方がわかりやすいのでは。